
令和7年度
阪神北☆夢づくり応援事業事例集



阪神北県民局県民躍動室県民課

令和7年度 阪神北☆夢づくり応援事業（一般事業枠）事例集 目次

No	市町	団体名	事業名称	ページ
1	宝塚市	自然の学びの会	阪神北地域の自然、里山及び文化と歴史をエコツアー体験を通じて見識を深めてもらう	1
2	川西市	HATAむすび	こどもたちと鍋でご飯を炊く・味噌汁づくり・野菜栽培・収穫・味噌づくり	4
3	伊丹市	いたみサン・ジョルディの日実行委員会	いたみサン・ジョルディの日	6
4	川西市	けやき坂小学校区自主防災会	自主防災活動推進事業	11
5	伊丹市	特定非営利活動法人伊丹アスリートクラブ	子育て世代。マルチスポーツでアクティブライフ	13
6	伊丹市	食の未来を創る会	おーがにつく市with体験・コミュニティ畑	15
7	三田市	ふれあい大会実行委員会	ふれあい大会	18
8	川西市	新田自治会 本部運営委員	空地利用DE異年齢と子育て交流事業	24
9	伊丹市	ALKU ART PROJECT実行委員会	ART TO ALKU	26
10	宝塚市	宝塚市こども会	体験イベントを通じた子育て世代の繋ぎの構築	29
11	川西市	鼓ヶ丘自治会	地域活性・自治会員加入促進事業 (FunFunくらぶ)	31
12	宝塚市	西谷農地再生プロジェクト	宝塚西谷 栗園再生プロジェクト	33
13	三田市	松が丘小学校区まちづくり協議会	松が丘小学校防災クラブ研修会	38
14	宝塚市	宝塚きづなひろば	楽器体験や落語・漫才体験を通じて子どもと大人のはじける笑顔づくりのプロジェクト	41
15	宝塚市	こころのケアの会	マルシェdeグリーンケア	43
16	宝塚市	竹あかり実行委員会	里山の保全とじゅんさいを活用した地域活性化	46
17	宝塚市	宝塚温泉まつり実行委員会	宝塚温泉まつりー地域の魅力を再発見、コミュニティの発展と次世代育成	48

令和7年度 阪神北☆夢づくり応援事業（万博・アフター万博枠）事例集 目次

No	市町	団体名	事業名称	ページ
1	宝塚市	宝塚エコネット	逆瀬川ホテル育成場所ピカピカランドの整備	51
2	宝塚市	宝塚市西谷地区まちづくり協議会 地域活性化部会	里山 time trip ～こどもたちの夏～	60
3	三田市	三田陶芸の森。	「三田陶芸の森。作品発表会＆茶室公開」	62
4	三田市	能楽と郷土を知る会	プロと子供たちで紡ぐ地域能楽の伝統－民話狂言の新作上演	65
5	川西市	竹あかり実行委員会	清和源氏 侍体験<First SAMURAI> イベントin 多田神社	67
6	川西市	まちの宝物サポート隊	三ツ矢&源氏ヒストリー・ウォーク回廊づくり	71
7	猪名川町	星の宿 彩音	柏原棚田王国復活！国内外の誘客を図る体験型プログラム	76
8	宝塚市	宝塚温泉まつり実行委員会	宝塚温泉を「英訳漫画」で世界に発信	81
9	三田市	三田里山トレイルランニング実行委員会	三田母子トレイルレース	83
10	伊丹市	イタミヲテラス実行委員会	イタミヲテラス～灯りのラビリンス in 西台～ ワークショップ・マーケット実施事業	86
11	三田市	一般社団法人三田市観光協会	伝えようふるさと三田が育んだ偉人～白洲次郎～	90

事業名

(阪神地域の自然、里山及び文化と歴史をエコツアー体験を通じて見識を深めてもらう)

団体名	自然の学びの会			代表	仲井 徳	
協働団体						
活動地域	阪神地区					
事業の 目的・趣旨	この会は阪神地域の優れた自然、里山及び文化と歴史を広く知り、地域の方々児童に体験して頂くエコツアー・講演会を実施することにより、会員の阪神北地区の地域資源に関する見識を深めるとともに、兵庫県が目指す方向「阪神地域ビジョン」の実現に少しでも寄与していくことを目的とする。 兵庫県及び志しを同じくする他グループとの連携、共催、支援に心掛ける。					
事業内容	2020 年度から 2 年間の VISION 委員会活動を踏まえ、2022 年度から独自でボランティアグループを立ちあげ継続推進活動を行う 年数回、構成メンバーとともに、阪神地区の自然や文化や歴史をとともに体験してもらう公募ツアーで一般参加者を集め、阪神地区の魅力ある地域の見識・理解を深めてもらう【公募ツアー全 3 回開催】					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	7	6	15	定例会	8	9
	7	7	20	第 1 回公募講演会	7	
	7	7	20	定例会	8	
	7	8	17	定例会	8	
	7	10	19	定例会	8	18
	7	12	21	定例会	7	
	8	1	18	第 2 回公募講演会	8	
	8	2	15	定例会	8	
8	3	15	第 3 回公募ツアー（中山街道）	7	17	

事業効果	3回の公募ツアーで一般参加者を延べ44名募り、阪神地区の自然や里山、文化、歴史に触れあう事が出来た。 公募ツアーは、参加者に生涯の学びの場を提供することにも繋がり、新たな発見や気づきを与えられたと確信している	
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGsの推進 (取組内容) 陸の豊かさを守ろう 生物多様性の大切さをPRする	(効果) 旧中山街道で貴重な植物の自然観察や歴史・文化を通じて参加者にはそれなりのIMPACT/新たな発見を感じてもらえる事ができました 【目標17】
	2 阪神地域ビジョン2050の実現 (取組内容) 自然、歴史、文化が息づくまち 人をそだてるまち 生涯学びの場を提供	(効果) 2回の講演会(・増えた昆虫、減った昆虫/伊丹の昔話、云い伝え)を通じて、地域の自然や文化・歴史に新たな発見や感じるものがあり、参加者の今後のモチベーションアップに繋がられました 【シナリオ15】
課題及び今後の展望	☐ 今後の展望 他の市民団体との連携を図り、阪神地区の新たな魅力づくり活動を徐々に浸透化させていきたい	

(活動状況写真)

別紙添付資料ご参照

団体名 自然の学びの会

団体設立 西暦2022年3月13日

活動分野 エコツアー

設立目的 この会は阪神地域の優れた自然、里山及び文化と歴史を広く知り、体験して頂くエコツアーを実施する事により、会員のニューツーリズム(エコツーリズムとグリーンツーリズム)に関する見識を深めると共に、兵庫県が目指す方向「阪神地域ビジョン2050」の実現に少しでも寄与することを目的とする

第1回公募 講演会



- 2025年7月20日(日)13:00～14:30
- 宝塚市東公民館 3F 学習室
- スタッフ7人＋一般参加9人
- 講師:伊丹市昆虫館友の会会長
河上 仁之 氏
- テーマ:「数十年前と比べてへった虫、
ふえた虫」
～みんなで考えよう～

第2回公募 講演会



- 2026年1月18日(日)10時～11時30分
- 伊丹市立図書館“ことば蔵”1F ホール
- スタッフ8人＋一般参加18人
- 講師:伊丹市文化財ボランティアの会
元会長 池田 利男 氏
- テーマ:伊丹の昔話と民話と伝説

第3回公募 早春の中山寺周辺巡り



- 2026年3月15日10時～14時30分
- スタッフ7人＋一般参加17人
- ガイド:伊藤 千賀子 氏

中山寺古墳～中山寺梅林～市杵島姫神社
～中山荘園古墳～売布神社

事業名		こどもたちと鍋でご飯を炊く・味噌汁づくり・野菜栽培・収穫・味噌づくり)					
団体名		むすび			代表	畑 奈子	
協働団体							
活動地域		川西市 川・ 猪名川町万善					
事業の 目的・趣旨		HATA むすびは、子育て期の親子が安心して い、心身を整えられる地域の居場所づくりを目的とする。ヨガと を軸に、田んぼでの稲作、春のじゃがいも・玉ねぎ収穫、栗拾いなど自然体 を通じ、親の心の回復、子どもの主体性と 育を育む。孤立しがちな子育てを地域で支え合い、持続可能な子育て環境の形成に寄与する。					
事業内容		■ 広 報 ・ 参 加 促 進 係機 と連携し、公式 LINE・Instagram、地域掲示、口コミを活用して 神北地域に周知を行い、親子の参加を促進した。 ■ 定 期 プ ロ グ ラ ム 「 HATA ヨ ガ ご は ん の 日 」 催 日 時 通 年 ・ 月 1 回 程 度 冬 季 は 路 凍 結 の た め 休 み 催 場 所 川 里 山 セ ン タ ー 旧 川 小 学 校 内 容 親 向 け ヨ ガ ・ 呼 吸 、 親 子 で の 手 づ く り ご は ん ・ 季 節 の 自 然 遊 び 参 加 者 親 子 約 1 7 組 回 ■ 自 然 ・ の 体 活 動 内 容 田 ン ボ で の 稲 栽 培 、 春 の じゃ が い も ・ 玉 ね ぎ 収 穫 、 秋 の 栗 拾 い 等 の 季 節 行 事 目 的 育 、 主 体 性 の 育 成 、 地 域 資 源 の 活 用					
スケジュール		実施日 年-月-日			参加人数 人		
						一般参加者	
		2025	4	16	HATAyoga & ごはんの日	4	4
			5	18	玉ねぎ収穫体	2	8
			5	21	HATAyoga & ごはんの日	2	3
			5	27	稲作 田植え	4	1
			6	7	玉ねぎ収穫・じゃがいもためし堀り	2	12
			6	19	HATAyoga & ごはんの日	3	6
			6	21	ジャガイモ収穫	2	13
			7	16	HATAyoga&ごはんとプールの日	4	6
			9	11	HATAyoga & ごはんとプールの日	4	4
			9	25	稲刈り①	3	1
			9	29	稲刈り②	4	1
			10	8	稲作 脱穀	4	1
			10	13	栗拾い	5	12
			10	16	HATAyoga ごはんの日	4	16
			11	19	HATAyoga & ごはんの日	4	6
12	4		HATAyoga ごはんの日クリスマス会	5	10		

事業効果	定期的な催により、延べ多数の親子が参加し、子育て世代の交流促進と地域の居場所づくりに寄与した。参加者からは「安心して過ごせる」「心身が整う」との声が多く、保護者の心の安定や孤立防止につながる実践的な取組であることが確認された。 また、稲作や収穫体、栗拾い等の自然・の活動を通じ、子どもたちの主体性やへの心がまり、親子で学ぶ育の効果が見られた。地域資源を活用した継続的な事業として、神北地域における子育て支援と交流の基盤づくりに有効であることが実証された。		
SDGsの推進、 神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	SDGsの推進		
	(目標番号) 3	(取組内容) ヨガと、農自然体などを組み合わせるイベントの実施	(効果) 子育て世帯の孤立防止、育・親子のウェルビーイングをめ、地域で支えあう子育てのひとつの形を実践した。
	神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 5	(取組内容) ヨガと、農体を通じ、親子の心身の健康と交流を育む居場所づくりを実施。	(効果) 孤立しがちな子育て世代のつながりが生まれ、健康増進と地域で支え合う基盤が強化された。
課及び今後の展望	【課】本事業はボランティアによる運営を基盤としてきたが、継続には運営側の「経済的・時的・体力的余裕」が不可欠であることが明らかとなった。スタッフのライフステージの変化等により、無償体制のままでは安定的な人材確保と事業継続が困難である。【今後の展望】本年度を一区切りとし、これまでの成果と地域ニーズを整理した上で、担い手に適切な対価を支払える持続可能な運営形態への移行を検討する。将来的には、再や他団体との連携、モデルの共有を通じ、神北地域における子育て支援の質の向上に引き続き貢献していく。		

活動状況写真
別紙参照



団体名 HATA むすび

団体設立 2023 年 月 日 活動分 こどもの健全な心身育成 里山保全

設立目的 子供たちの健全な心身の発達

母子の孤立 止

地域のつながり

育 日本 文化継承 地域自然保護

事業名	(いたみサン・ジョルディの日
------------	----------------

団体名	いたみサン・ジョルディの日実行委員会	代表	嶋孝子
協働団体			
活動地域	兵庫県伊丹市		
事業の 目的・趣旨	スペインカタルーニャ地方の文化「4月23日 サン・ジョルディの日」の趣旨・コンセプトに共感し、それを伊丹市で広める。4月23日は日本では「子ども読書の日」であり、その周知や普及も兼ねる ・ ブラインドボックス ラッピング本の交換、ブックマーケットを通じて大人、子どもの両方が本に親しむ、本に向き合う機会をつくる。 ・ 本や花を贈って感謝や愛を伝える文化習慣を知り、取り入れてもらう。 ・ 本や を通じて異文化 本企画ではスペインカタルーニャ文化 を知り、広い世界に興味を持ってもらう。 ・ エリアやスタイルの異なる二会場で 催することで、中心市街地の広場の活性化、中心市街地外の公共施設の 力の発信と新たなにぎわいづくり、多様で新しい文化の創出を、より広い範囲で図っていく。		
事業内容	いたみサン・ジョルディの日 催日時 ① 2025年4月20日 日 10:00～16:00 ② 2025年4月26日 土 10:00～16:00 催場所 ① 三軒寺前広場 兵庫県伊丹市中央3-2-4 クロスロードカフェ前 ② 伊丹スポーツセンター 敷地内 外 伊丹市 池 -1-1 内容 1. ブラインドボックス 実行委員会によるラッピング本の交換 (1) 参加者が交換する本を持参 (2) 受付でラッピング 表紙や著者名が れる (3) 本を持参した人が本を表すキーワードやメッセージを書く (4) 交換本として並べる (5) 好きなラッピング本を1冊選んで持ち帰る 表紙や著者名が見えておらず、キーワードやメッセージを りに本を選ぶため、日自分では買わない 選ばない ような本との出会いがある。 4/23は「こども読書読書の日」でもあるため、子どもの参加も促進。 2. マルシェ 古本、薔薇の花、カタルーニャの伝統菓子、カタルーニャのワインや生ハムの出店。 (1) 本 ①古書 みつづみ書房、トラベリングブックストア、 文庫、B-bookstore ②古書 みつづみ書房、SUS くらしと本のみせ スウス (2) 花 Kazuna flower life (3) カタルーニャの伝統菓子 スペイン菓子工房デュルセ・ミーナ (4) カタルーニャのワインと生ハム SAKAGURA BODEGA サン・ジョルディの日とは スペインのカタルーニャでは、4月23日がサン・ジョルディの日とされており、		

	家族や恋人、友人など親しいひとの で本や薔薇の花を贈って愛や感謝を伝え合う日となっている。街には本と薔薇のマルシェが立ち、身近なひとや、自分自身のためにプレゼントを買い求めるひとびとで賑わう。					
スケジュール	実施日 年-月-日			事業概要	参加人数 人	
						一般参加者
	R7	4	2	企画会議	5 人	500 人
	R7	4	7	出店者決定	3 人	
	R7	4	8-19	チラシ作成、ホームページ作成、内容紹介、詳細案内、告知、ブラインドボックス用本仕入れ、販売用菓子仕入れ	3 人	
	R7	4				
	R7	4	13-17	ブラインドブックラッピング	2 人	
	R7	4	17-18	示物準備①、什器準備①、備品レンタル手配①	2 人	
	R7	4	19	スタッフ、出店者への当日案内送付①	1 人	
	R7	4	20	イベント当日① 三軒寺前広場	9 人	
	R7	4	20	反省会①	7 人	
	R7	4	23-25	掲示物準備①、什器準備①、備品手配①	2 人	
	R7	4	25	スタッフ、出店者への当日案内送付②	1 人	300 人
	R7	4	26	イベント当日② 伊丹スポーツセンター	10 人	
	R7	4	26	反省会②	8 人	
	R7	4	28-	イベント報告、支払い業務、行政報告書作成	2 人	
	R7		6/30			

事業効果	伊丹での新たな文化的要素を創出できたことで昨年に続き来場してくれた方や初めて来場した方たちもおられ、イベントの認知アップとイベントの良さを実感できた。子どもから大人まで幅広く参加いただけ、新たなにぎわい創出、力の再発見につながられた。新たな本や読書に する出店も実現できた。 今回は、中心市街地の公共広場と市内部にある公共施設の2会場で実施したが、それぞれの場所の活性や文化を伝えることで、多様で新しい文化への認知を め、周知やイベントの 力をを上げられ、力発信への新たな効果をもたらすことができたと思う。 すでに持っている・手放してもいいといったものを捨てずに再活用できる、別の誰かに渡すことができることや他国の 力ある文化・良い慣習を取り入れたりすること、それらによる人との交流ができることなど、楽しんで参加できる企画を通じて、毎日の暮らしを慈しみ、人や物を大切にすることへの気づきやヒントの提供に貢献できたかと思う。 大人も子どもも本に親しみを持てる機会となり、各々の心や能力の成 のきっかけになれているのではないかと思う。		
SDGs の推進、 神地域ビジョン 2050 の 実現に向けた 取組の効果	SDGs の推進		
	(目標番号) 4	(取組内容) スペインカタルーニャ地方の文化や慣習を取り入れ実施。「こども読書の日」の普及意義・ 連性を持ち、ブックマルシェや本の交換会など本の企画を実施。	(効果) 外国の文化や慣習を知り触れる機会、「本」「読書」への 心を持つきっかけを創出できた。幅広い教育への機会となり、生涯学習にも繋げていける。
	11	中心市街地の公共広場や中心市街地外の公共施設が会場となり、来場、繋がり、係りのきっかけを創る	(効果) イベントを目的に会場を訪れ催しに参加することにより、まちや社会との繋がり、そこにいる者や公共機 との係り、交流を持つことにつながり、暮らしやすさへきっかけとなった。
	12	(取組内容) ブラインドボックス ラッピング本の交換会 を実施し、自分の手元にある本を他者へと贈る機会を提供する。古本の新たな活用として価値を捉え直す。	(効果) 「すでに持っているもの・手放してもいいもの」今回は本 を捨てずに価値を見直し他者へ渡すことで再活用が可能となり、他者が持っているものの価値を知ることにより新しいものを買うばかりではない持続可能な消費や贈ることの機会を認知させられた。
	神地域ビジョン 2050 の実現		
	4	(取組内容) 「本や薔薇を贈り合う」というスペインの文化や慣習を取り入れ、日本 伊丹 流コンテンツを入れアレンジして実施。	(効果) 外国の文化・慣習と日本 伊丹 流コンテンツ・文化との融合による新たな文化との出会い、「贈り合う」という慣習化で、楽しく豊かでいきいきとしたライフスタイルへのきっかけとなった。

	9	(取組内容) 誰でも行きやすい会場 中心市街地の公共広場や中心市街地外の公共施設、「本」に連するイベントであることなど、幅広い世代が参加できる。	(効果) 中心市街地、中心市街地外、公共の場ということで誰でも幅広い層が来場しやすい会場で、全世代が係りを持てる「本」の企画で幅広い世代が参加できるイベントで、まちとの繋がり、人との交流を持つ機会を作れた。
	(シナリオ) 17	(取組内容) ブックマルシェや「サン・ジョルディの日」発祥のカタルーニャのマーケットの催で、街の中心広場にひとを呼び、ふだん街を通りすぎるだけのひとをも足をとめてもらい、にぎわいを創出する。	(効果) 伊丹の街や広場の活性化、新たな文化・交流の創出をはかることが可能。新たな街や広場のにぎわいや交流を生む機会を創出できた。
課 及び 今後の展望		去年は 天 催で晴天時であればどれくらいの来場があったかがわからなかったもので、想定としては、今回、2会場とも来場が少なかったように思う。昨年より認知されているが、まだ不足していると感じた。今回、新たな会場 市内部のスポーツセンター では、初めてということもあり、特に周知が不足していたことを感じる。 今回は晴天で、昨年以上に良い写真を撮影できているので、写真も上手く活用し、周知の強化と「行ってみたい」「参加してみたい」を促せるようにしたい。 また、会場の設えに課 があると感じたので、通りがかりやたまたまそこに来た人も興味を持てるような、「のぞいてみたい」と感じてもらえる会場づくりも必要と思った。 「ブラインドボックス」など参加費が発生するものの強化もしたいと思う。	

活動状況写真

20 日





26 日



団体名 いたみサンジヨルディの日実行委員会

団体設立 西暦 2023 年 4 月 11 日

活動分

スペインの文化・慣習「サンジヨルディの日」に合わせたイベントの企画や実施

設立目的 新たな文化の取り入れ
まちのにぎわいづくり

(自主防災活動推進事業)

団体名	けやき坂小学校区自主防災会			代表	大田充司		
協働団体	けやき坂コミュニティ協議会						
活動地域	けやき坂小学校区						
事業の 目的・趣旨	住民の隣保共同精神に基づく自主的な防災活動を行う事により防災に備えた意識を育む。 定期的地区別に防災訓練を実施し、より多くの住民にアピールすることにより万一に備え 被害の予防軽減を図ると共に安心安全な街づくりを目指す。 スタッフ増員、後継者の育成。						
事業内容	5ブロック地域別防災訓練実施 救難救助防災講座開催 避難所開設・運営マニュアル策定 総合防災訓練開催（上記マニュアルに準ずる体験訓練） 各種地区イベントに協力共催（文化祭、春祭りなど） 小中学生を対象にした防災講座開催						
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）		
	7	5	21	役員会 組織構成員、事業計画、スケジュール	6		
			24	地区防災訓練（2丁目）雨天のため中止			
			6	地区防災訓練（3丁目）	8	13	
		11		臨時役員会 防災キャンプについて	11		
			21	地区防災訓練（4丁目）	6	9	
			7	地区防災訓練（1丁目）	6	9	
		15		臨時役員会 防災キャンプ実行委員会	11		
			8	10	臨時役員会 同上 内容及び日程変更	9	
			9	23	臨時役員会 同上実行委員会	9	
		10	5	同上「親子で学ぶ楽しい防災」講座実施	14	20	
		11	2～3	文化祭にて「自主防災会コーナ」開設	4	400	
		15		地区別防災訓練（5丁目）	8	47	
			12	6	川西市防災訓練 於：久代小学校	8	
			26	川西市危機管理課との打合せ	1		
		8	1	11	川西市消防出初式	1	
				21	総合防災訓練広報横断幕、看板ポスター設置	6	
				2	21	総合防災訓練開催	34

事業効果	「親子で学ぶ楽しい防災」講座はこの度初企画でしたが大きな手応えを感じた。今後とも改善しながら継続したい。当初一泊キャンプ形式を企画したが、諸事情により単日に変更実施となった。 地区別防災訓練は伝統的に継承されている事業で基本は身についている。半面マンネリ化とも言え高齢化も伴って参加者が少なくなった。 総合防災訓練については来年度の川西市との合同訓練の予行演習と位置付け開催だった		
SDGs の推進、阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 11・17	(取組内容) 「親子で学ぶ楽しい防災」講座と体験。簡易担架作り、応急処置方、救出救護搬送、初期消火体験、間仕切りテント組立、炊出しカレー作り	(効果) 参加者のアンケート結果を踏まえ、楽しく有意義な事業と確信した。 小中学生に地域に貢献できる素地を養う事ができたと思う
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 9.12.17	(取組内容) 多様な人が集う祭りやイベントに共催 文化祭、春祭り	(効果) 共に協力しながら作り上げる楽しさや充実感
課題及び今後の展望	小中学生を対象としたキャンプ形式で避難所生活体験を企画募集したが、応募者が 1 組だけで実現しなかった。企画変更せざるを得なかった原因として施設環境でジェンダーの問題に保護者の理解が得られなかった事。しかし半日体験で十分な内容だったと思う事ができた。		

(活 動 状 況 写 真)



事業名			子育て世代。マルチスポーツでアクティブライフ					
団体名			特定 営利活動法人伊丹アスリートクラブ			代表	石末 わ治	
協働団体								
活動地域			伊丹市					
事業の 目的・趣旨			令和5年「国民栄 ・健康調査」 厚生労働省 によると、運動習慣のある女性は28.6%。この10年変化が見られないとのこと。 男性は36% 女性の世代別では20代・40代がもっとも低い結果となっています。また運動習慣改善の意思がある女性でも、家事・育児等が忙しく時 がないというのが最も多い運動できない理由。 誰もが家族や仕事、地域の貴 なる人材です。スポーツ的に表現すればチームの戦力です。個々のメンバーには役割やポジションがあります。身体 の健康やアクティブに活動できる体力がなければ、それは地域というチーム全体の戦力ダウン、活力低下ということに。“子ども”ではなく“子育て世代”対象に運動・スポーツ活動を実施してアクティブなライフスタイル構築の契機とします。					
事業内容			催日時 令和 年 月 日 日 13:00-15:00 催場所 伊丹市立スポーツセンター 球場 外 芝生エリア 参加者 運営 名、コーチ チア 名・サッカー 名・ラグビー 名・ソフト 名・キッズ 名 社会人・学生ボランティア 名、参加者 名 内容 「マルチスポーツ」体 験・交流。チーム組みした参加者が、 球型 ソフトボール 、サッカー、チアダンス、ラグビーといった複数のスポーツをローテーションで体 験。地域でセカンドキャリアとして活躍するアスリートコーチのもとプレーし交流しました。					
スケジュール			実施日 年-月-日		事業概要		参加人数 人	
								一般参加者
				6月14日	スタッフ編成ミーティング・日程と会場調整			
				7月26日	地域団体への協力依頼 訪問 実施概要、参加者案内協力について		3	
				10月10日	チラシ制作完成		4	
				10月16日	協力団体あてチラシ配布		2	
				10月28日	ZOOM スタッフ・コーチミーティング 実施内容共有		8	
				11月2日	催日		25	84
				11月12日	運営スタッフミーティング 実績報告書作成		4	

事業効果	保護者自身が参加者としてスポーツをプレーし楽しむ機会。身近なコミュニティーを通じて「場」と機会の提供をし、参加者のアクティブなライフスタイルをイメージいただく時間となりました。また企画時の想定とおり「非日常＝スポーツ」での交流は、自然発生的な声掛け、呼びかけと応答、応援や称賛で参加する誰もがわかりやすいかたちのコミュニケーション機会となることが確認できました。40分×3のプログラムでした（3回転目は、参加者の子どもたちも参加としました）が、地域間交流の希薄化を埋めるツールとしても有効であることについては参加者からも声をいただきました。		
SDGs の推進、 神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	SDGs の推進		
	(目標番号)	運動・スポーツを通じて、健康的でアクティブなライフスタイル構築に貢献する。	(効果) キッズ向けを“おとな版”展。プレー強度・時配分を調整し、趣旨・企画意図を伝えて実施することで参加者へスポーツのライフスタイルへの貢献の可能性を伝えることができました。
	神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ)	(取組内容) 複数のスポーツ種目でチーム、グループ編成、人と人が出会い、コミュニケーションする契機とする。	(効果) 「マルチスポーツ」体験で、スポーツ参加が高校大学以来といった方々がプレーを通じて、挨拶、笑顔で自然体の準備のいらないコミュニケーション機会
課 及び 今後の展望	当初予定の会場が大規模改修工事のため実施時期が 週早まる変更となりました。このため事前に自主事業として事前活動実施をするなど連携している近 幼稚園からの参加者が予想より少なくなりました。一方、いたみ文化・スポーツ財団の小学生対象大規模スポーツイベント会場で実施することとなりました。保護者世代も多数来場しており、実施時の調整等で次回以、相乗効果で認知度向上・参加者確保となるよう計画します。		

活動状況写真



団体名 特定 営利活動法人 伊丹アスリートクラブ

団体設立 西暦 2003 年 4 月 21 日

活動分 まちづくり スポーツ

設立目的 伊丹市出身のプロアスリートを中心にして地域住民、スポーツ愛好者を対象にスポーツの振興を図る事業を行ない、競技種目や年齢・キャリアといった垣根を越えた活発なコミュニケーションのあるまちづくりに寄与することを目的としています。

事業名	おーがにつく市 with 体験・コミュニティ畑		
団体名	食の未来を創る会	代表	西浦有衣子
協働団体	南小学校地区自治協議会 伊丹市 父市 朝来市 豊岡市 日本熊森協会 一般社団法人 de つながろ 県立伊丹 校		
活動地域	伊丹市 阪神地区 丹波地域 播磨地域 但 地域など		
事業の 目的・趣旨	伊丹市の南にある稲野公園は、週末になると親子連れが訪れる地域に愛されている公園である。人口が多い地域であり、全ての人を繋ぐ「食」を通して、多世代が交流するのに適しており、理解醸成と活気づくりが行える場所である。一方、日本において「食」をとりまく環境は大転換の時を迎えている。つまり、農業人口の減少で耕作放棄地は拡大し、さらに日本全体の人口減少の加速により、食料自給率は今後さらに落ちこむことが懸念される。人と環境にやさしい農業は手間暇がかかる、その想いを大切にして作る人と、都市の食べる人が顔の見える関係になることで、「食」について共に考え行動し、地元食材を買い支えることの大切さや未来を担う子どもたちの健康とその可能性のための持続可能な環境について考えるきっかけとする。 また、現在活動している地域の田畑において、一般市民、親子、生徒、児童、園児などを想定し、人と環境に優しい農業を体験する場として提供する。参加者においては、農業の楽しさ、旬をとらえた人と環境に優しい農産物の美味しさを感じてもらいながら、エシカルな消費行動等ライフスタイルについて考えることや、農村への関心を高めるきっかけになることを目的とする。		
事業内容	・執行部による関係先(自治協議会・伊丹市教育委員会・伊丹市農政課・阪神地区、丹波篠山市の出店者・父市・朝来市・豊岡市・地域の保育園、日本熊森協会 一般社団法人 de つながろ 県立伊丹 校)への協働の依頼 ・実行委委員会の立ち上げ ・「いたみおーがにつく市」と「体験・コミュニティ畑」の開催 開催日時:いたみおーがにつく市 2025 年 11 月 16 日 日曜日 体験・コミュニティ畑 2025 年 9 月 24 日 開催場所:いたみおーがにつく市 伊丹市 稲野公園(自転車公園) 体験・コミュニティ畑 伊丹市口酒井 園場 開催内容: ・阪神地区や丹波篠山市等からの出店と、但 地域(父市、朝来市、豊岡市)より、兵庫県産品として、人と環境にやさしい農作物やその加工品の出店・販売。兵庫県は全国で一番多くの市町が国の推進するオーガニックビレッジ宣言に参画しており、それらの自然豊かな有機県産品を玄関口である阪神地区伊丹市で PR。兵庫の 力発信、都農共生を都市の消費者へ啓発。有機農業の振興に資する体制についての調査・研究として、11 月 11 日の伊丹市中学校給 食に使用され、生産者から 育講話が行われた父市有機ほうれん草を、今回のマルシェで同生産者が直接販売。伊丹市農政課長、教育部長、市長らが視察、国、県、市の議員らも交流、就学前施設園長などの訪問もあり、様々な視点から検討を重ね、今後も実行可能なことを市と連携して行う予定。 ・伊丹市幼児教育推進課を通して、市内全公立私立就学前施設園長宛に、 育支援の要望調査を行い、田畑の体験を希望する伊丹森のほいくえんと千僧森のほいくえんと協働して、稲刈り体験を行った。		

	実施日 年-月-日			事業概要	参加人数 人	
						一般参加者
スケジュール	7	5	15	執行部打ち合わせ マルシェと体・コミュニティ畑概要等検討	5	
		5	26	播磨地域農家訪問	2	
		5	下旬	協働団体への連絡・出店要望調査	3	
		5	20	豊岡市訪問	4	
		6	19	第一回実行委員会 出店者調整等運営確認	8	
		6	30	朝来市訪問	4	
		7	1	父市訪問	3	
		7	17	第二回実行委員会 協働団体との調整	8	
		7	29	園との 合わせ 田畑の活動日程・行程調整	3	
		9	24	体・コミュニティ畑活動実施	3	30
		9	24	自治協議会への協力依頼	1	
		10	16	第四回実行委員会畑活動振り返り最終調整	8	
		11	16	いたみおーがにつく市	13	約 1,000
		11	20	第五回実行委員会 振り返り反省会	5	



4年目第六回となるいたみおーがにつく市は、今までにない賑わいとなりました。今回は豊かな但馬地域(養父市、朝来市、豊岡市)から出店がありました。また、昨年バスツーリズムで訪問した丹波篠山市や、阪神各市より米粉パンの出店、環境保護団体の日本熊森協会、県立伊丹高校 그리스 類型といった新しい出店を迎えました。同月、伊丹市中学校給食に有機ほうれん草を納入した、養父市大屋高原の生産者さんが新鮮な葉物野菜を直接販売してくださり、様々な機会を通して、有機への理解醸成を図ることができました。中田市長さんが全ブースの出店者と積極的に交流している姿が印象的でした。イベントスペースでも新たな出演者を迎えることができ、今後の開催に弾みがつきました。

事業名		ふれあい大会				
団体名	ふれあい大会実行委員会				代表	西 克宏
協働団体	平区長会と 14 団体					
活動地域	兵庫県三田市 平地区					
事業の 目的・趣旨	親子でふれあうキャンプファイヤーからスタートして、親子のみの開催から地域の方々にもご協力 ぎ大会を重ねて、コロナ禍で開催できない 年も乗り越えて、子どもたちの笑 の為、地域の方々の交流の場として少子 化の中でも、地域の方々に大きな力をかけて ぎ続けてきました。これからも多世代交流はもちろん、ふるさとの集う場・自分の地域の良き自慢できる場・笑 溢れる場として今まで続けて いた方とも協力し、継続できる、準備やお手伝いの簡素化、協力しやり遂げる達成感、次世代の方が参加、協力したいと思う大会を目指したいと思います。					
事業内容	ステージ発表・模擬店での出店を通じた地域貢献、多世代交流を図るため、ふれあい大会を開催する 日付 令和 年 月 日 日 場所 平小学校 大会名 第 回 ふれあい大会 参加者 区長会・補導員・消防団など 地域の方々延べ 700 人					
スケジュール				事業概要	参加人数 人	
						一般参加者
	2025	6	6	第 1 回 ふれあい大会実行委員会 役員会	20	1200
	2025	7	1	巡回車に関するアンケート地区配布	20	
	2025	8	8	第 2 回 ふれあい大会実行委員会 役員会		
	2025	9	5	第 3 回 ふれあい大会実行委員会 役員会	20	
	2025	9	19	花火申請書 提出	1	
	2025	10	1	警察・市役所・消防・保健所申請提出	2	700
	2025	10	26	予告看板設置	2	
	2025	10	24	第 4 回 ふれあい大会実行委員会 役員会	20	
	2025	11	1	前日準備	15	
	2025	11	2	ふれあい大会当日	70	
	2025	11	3	片付け	20	
	2025	11	30	支払い	2	
	2025	2		会計監査 予定	5	
2025	2		第 5 回 ふれあい大会実行委員会 役員会	20		
			予定			

事業効果	・小学生にも参加協力できる、看板イラストの作成、当日天気になるようにてるてる坊主の作成、ステージへの参加募集することで大会への協力、期待感を膨らめます。 ・地域団体とのコラボ企画により大会とコラボ企画への参加者を増やすことができた。 ・地域内で活動されている団体作品や個人での作品を【オリジナル作品】として募集することでお披露目する場を提供できた。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	SDGs の推進		
	(目標番号) 11	(取組内容) 平地区の住人で協力して運営、新しく移住された方、ふるさとに戻ってきた方の交流の場	(効果) 模擬店出店を初ながら、住人同士で出店して、喜んでもらえる、やり遂げる達成感を感じる事ができ、来年度も出店したいの意欲に繋がった。
	阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 3	(取組内容) 平移住に新しい環境で人との繋がりを広げるなか、大会に参加し関わり 平在住の方との住みやすい町づくりについて交流	(効果) ・仕事で 平で関わる中、ステージを観て来年度は自分も出演してみたいと思った。 ・地域貢献と思い大会に関わったが、次回はどんな関わり方で大会に参加しようと地域との関わるきっかけになった。
課 及び 今後の展望	少子 化に伴い関わる方の年 層が くなり体力的に準備作業の工夫、時間短縮できる作業の見直し、若い世代の方が関わられると思う作業の明確化、大会を楽しんでた世代の新たな即戦力になるための声かけ。		

活動状況写真



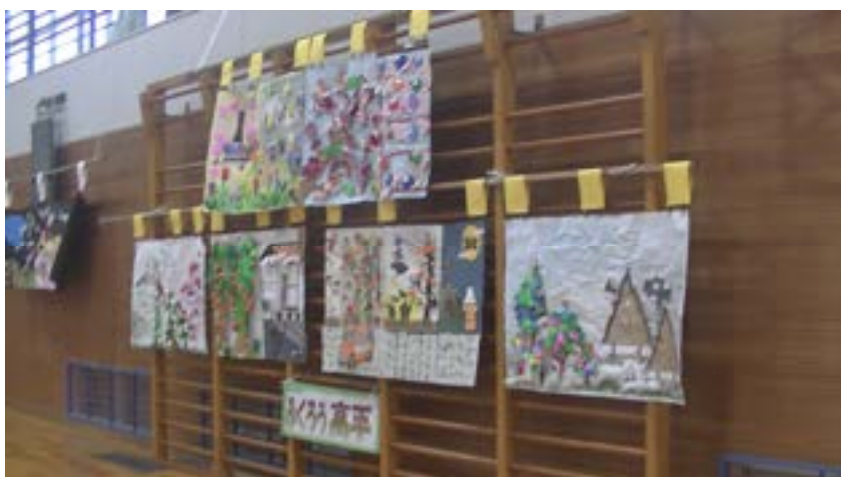
準備①



準備②



準備③



当日①



当日②



当日③



当日④



当日⑤



当日⑥



片付け

団体名 ふれあい大会実行委員会

団体設立 1985 年 7 月 13 日

活動分野 子どもの健全育成
地域の方との多世代交流

設立目的 親子でふれあうキャンプファイヤーからすた一とされているようです。親子のみの開催から地域の方々にもご協力頂き大会を重ねて、コロナ禍で開催できない1年も乗り越えて、子どもたちの笑顔や地域の方々の大きな力を貸して頂き、開催させて頂いております。少子高齢化の中で子どもたちの為に、ご尽力頂いた地域の方々と共に、今後は多世代交流が図れる大会として今まで続けて下さった方々と共に継続していきたい。

事業名（空地利用 DE 異年齢と子育て交流事業）						
団体名	新田自治会 本部運営委員				代表	後藤 恵子
協働団体	新田自治会 各種協力団体					
活動地域	川西市 猪名川町					
事業の目的・趣旨	1 自治会員だけの問題でない、防犯の観点からも空地利用という課題で広く地域創りについて話し合う場をつくる 2 地域のおとな・こどもが「ラウンドテーブル」で集う活動 3 にぎやかな場、妊産婦と乳幼児や未就学児が安全に走りまわれる場、地域の伝統を継承する場、一時避難場として空地利用と憩いの場づくり					
事業内容	・ボール遊びができるようなにぎやかな場や子どもたちの声や笑顔があふれて、妊産婦と乳幼児および未就学児が安全に走りまわれる場がない。地域の祭りを伝承する場づくり。防犯対策として空地を賑わいの場所にする。自宅から徒歩、自転車または交通機関利用で行ける範囲に必要なすべてのアメニティ（子ども食堂・公民館・公園・歴史＆文化・病院・社会貢献活動）を、異年齢交流を通して創るための案を、SNSや口頭でアンケートを募ることと、高校や中学にチラシを巻いて、おとなだけでなく、企画会議への参加を依頼した。偶然ですが、地域の公園づくりについて、中学校の授業で考える機会があったと聞いて、新田のすべての公園にチラシを掲示したり、広報誌だけでなく、多田コミュニティ協議会の広報誌に2度掲載いただき、全戸配布をいただき、広く参画を周知する。猪名川町の高校近郊の高校でも、各教室の後方の黒板やミマモルメ等で周知する。 ・地域の・こどもが企画の段階から参画して、「地域多世代交流づくり」について、さまざまな団体や地域の社会資源と連携して、3年間で伝承できる地域づくりの第一歩として「ラウンドテーブル」を地域の放課後に学校開放する団体に協力いただき行えた。 ・「クリーンアップ」で、遊び易くなった地域の空き地を開放し、実際に使ってもらうことで、改善してほしい案など、具体的な意見が出た。「秋祭り」を通して、「地域で子育てできる環境」や地域の安全・安心を感じる憩いの場として、地元や御隣同士、様々な世代を巻き込んで行いました。提案された案を空き地で実践3月。					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	2025	4	24	公園利用に関する企画会議	19	0
	2025	5	29	公園創り企画案を募る啓発活動と座談会	2	20
	2025	5	25	空き地クリーンアップと公園創り座談会	10	11
	2025	6	14	みんなのサロンで、公園創り座談会	7	10
	2025	8	9	みんなのサロンで、公園創り座談会	7	10
	2025	10	12	空き地クリーンアップと公園創り座談会	10	12
	2025	10	18	地域での宵祭り	21	10
	2025	10	19	だんじり地域巡行と空き地で交流	22	90
	2025	11	23	空き地クリーンアップと公園創り座談会	7	10
	2025	12	13	みんなのサロンで、公園創り座談会	7	12
	2026	2	14	みんなのサロンと空き地クリーンアップと座談会	10	30
	2026	3	26	空き地でイースターハント親睦会	7	12
	2026	3	28	地域の掲示板や公園創り企画案を再度募る啓発活動 に多田コミュニティ協議会の協力団体が参画 500 部	3	45
	2026	3	31	公園利用に関する企画会議 次年度に向けて	3	12
	随時		14 回	自治会だよりと多田コミュニティ協議会広報誌掲載	35	8000 部

事業効果	様々な世代が、実際に空き地で遊ぶ姿が毎日あり、その実際の意見を寄せてくれた。地域のおとなたちが、モルックサークルを立ち上げて、実践しながら、繋がりがうまれた。周知できるまでは、なかなか意見が出にくかったが、難しかったが、3月には、具体的な案や外遊びをする子どもたちの笑い声で、空き地の周りがにぎやかになった。何も無いなんでもできる場では、空き地の周りも利用して、今まで見たことない人数が集合場所として機能し、温かい日には壮大なくれんぼをする「遊び創り」など、創造以上の効果がうまれている。シニア世代も犬の散歩やながら見守り活動の動きがあり、クリーンアップにも今までみなかった子どもたちが参加してくれて、「ナナメの関係のおとな」に出会う機会がうまれている。小学校の保護者から、特に公園として本当に残してほしいという声をもらう。小学校の保護者や多田コミュニティ協議会協力団体の代表者との公園づくりのアイデアを対面で意見をいただく。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に 向けた取組の効 果	1 SDGs の推進		
	(目標番号)	(取組内容)	(効果)
	3	分断されている異年齢をつなぎ、	「ナナメの関係のおとな」に出会う機会がうまれている。
	11	健康促進を高める場づくり	
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
(シナリオ)	(取組内容)	(効果)	
	13	地域みんなで子育てする環境、	シニア世代も犬の散歩やながら見守り活動の動きがあり、クリーンアップにも今までみなかった子どもたちが参加してくれて、創造以上の効果がうまれた。
	17	秋祭りで災害時に間に合わない繋がりと生きがいづくり。	
課題及び 今後の展望	期待していた高校生や大学生の参加が、少なかった。地域の次世代に残したい、だんじり地域巡行等の祭りの継承のため、安心・安全地域を護る、災害時の時に間に合わない繋がりがりや担い手づくりのためにも、周辺の高校や大学への企画会議参加や座談会参加を増やせる啓発活動について、再度検討が必要だと感じる。		

(活動状況写真)



団体名 新田自治会 本部運営委員

団体設立 西暦 1983 年 1 月 1 日

活動分野 まちづくり 等

設立目的 地域の多世代のつながりづくりと地域の祭りを次世代へ継承する活動

事業名		(ART TO ALKU)				
団体名	ALKU ART PROJECT 実行委員会			代表	上村千重子	
協賛団体						
活動地域	伊丹市					
事業の 目的・趣旨	ART TO ALKU を通じて展示の場を創出することで、障害のある方のアートの素晴らしさ、そして理解と発展など様々な機会や価値を創出することを目的としています。 障害のある方にとってアートは生きる力の源泉そのものでもあり言葉そのものだと思います。伊丹市そして近隣にはアートの作業所がない状態です。アートの活動の場を創出しながら、地域の企業やお店様さまと障害のある方のアートがつながることで、障害のある方のアート活動の場を創出することを目指しています。					
事業内容	・広報活動の強化 ・関係機関と連携しながら、阪神間を中心に広く事業の案内を行い、イベントの周知を行った。 ・「ART TO ALKU」 開催日時 令和7年11月2日 10:00~16:00 開催場所 伊丹市中央2丁目9-29 三軒寺前広場 内容 アート展示、アートライブペインティング、ワークショップ、アートグッズ販売、飲食、ライブ演奏 参加者 出展者、一般市民など延べ700名					
スケジュール	実施日(年-月-日)			事業概要	参加人数(人)	
					スタッフ	一般参加者
	7	4	26	第1回実行委員会:開催概要イベント内容の協議	3	
		5	15	下見	2	
		6	5	第2回実行委員会:イベント内容の協議	3	
		7	5	第3回実行委員会:イベント内容の協議	6	
		10	3	第4回実行委員会:展示物制作	3	
		10	6	第5回実行委員会:展示物制作	3	
		10	12	第6回実行委員会:展示物制作	3	
		11	1	前日準備	5	
		11	2	「ART TO ALKU」開催	7	
				第7回実行委員会:開催結果報告 実績報告書作成		

事業効果	第一回目の開催であります、ART TO ALKU 目的を出展者と来場者の皆様伝えることができました。アートの価値を伝えることができ、新たに団体様とのコラボレーションがうまれました。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 8	(取組内容) 働きがいも経済成長も	(効果) 障害のある方の自由に自分自身の世界を表現するアートを正當に評価されることで、経済的自立を目指すことができる。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 14	(取組内容) アートによるクリエイティブな環境づくり	(効果) 阪神地域でうまれるアートの魅力で新たなアートの価値を生み、地域活性化を目指す。
課題及び今後の展望	アートの魅力が広がるよう阪神間での浸透を目指し、活動の場を広げていきたいと考えています。活動を継続し、協力機関を増やしていくことで、アートの価値を高めていきたいと考えています。		

(活動状況写真)

団体名 ALKU ART PROJECT 実行委員会

団体設立 西暦 2025 年 1 月 15 日

活動分野 障害者アート

設立目的 北摂にアート活動ができる場所を作りたい



事業名 (体験イベントを通した子育て世代の繋がり構築)							
団体名		宝塚市こども会			代表	風早 寿郎	
協働団体		西谷まちづくり協議会、西谷商工振興会					
活動地域		宝塚市西谷地域					
事業の目的・趣旨		子どもたちが格差なく体験できる機会を構築することにより、協調性や創造力を育み、人とのつながりの大切さを学ぶ機会を創り、子ども達、子育て世代のつながりを深めることを目的としています。また、仲間との関わりを通じて、地域への愛着を深め、周囲との関係性を含めた輝ける未来を創ることに繋がります					
事業内容		子どもたちが安心して体験し、学び、成長できる環境を提供するため、イベントの企画や、情報共有、補助を行っています。 子育て世代が交流できる場を作り、悩みや情報交換の機会を創り、子どもや保護者の精神的安定を育む機会を提供します。 また、防災や清掃に関する活動を通じて、地域とのつながり、安全性向上に繋げ、子どもたち、保護者が協力し合い、思いやりを持って行動できる社会の構築を目指しています。 イベント <JAL 折り紙ヒコーキ教室>紙飛行機を飛ばそう！ 日 時 2025 年 11 月 1 日(土)10-12 時 場 所 宝塚市立会館 西谷会館 屋内活動室(宝塚市大原野炭屋 1－1) 参加者数 103 名					
スケジュール		実施日 (年-月-日)			事業概要	参加人数 (人)	
						スタッフ	一般参加者
		7	6	20	キックオフミーティング	4	0
		7	7	27	準備ミーティング(日程、会場確認)	4	0
		7	9	8	準備ミーティング(講師確認)	4	0
		7	9	20	準備ミーティング(広告打合せ)	4	0
		7	10	6	準備ミーティング(広告準備)	4	0
		7	10	15	準備ミーティング(イベント準備)	4	0
		7	10	21	イベント準備	3	0
		7	10	23	イベント準備(会場確認)	4	0
		7	10	26	イベント準備	3	0
		7	10	31	イベント準備	3	0
		7	11	1	紙ヒコーキイベント(宝塚市立会館西谷会館)	12	103
		7	11	20	領収書確認、参加者忘れ物を搬送	1	0

事業効果	紙ヒコーキを作成・飛ばす体験により、試行錯誤することで、何度でもチャレンジし、子どもどおし、保護者どおしの面識向上により、課題を抱え込まない地域づくりに寄与出来たと考えます。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 4	(取組内容) 異なる年齢の子どもたちを同じ席で紙ヒコーキを作るように会場設営を行った。	(効果) 異なる年齢の子どもたちが同じ席で作業することで協調性を育むことに繋がりました。
	11	複数回のヒコーキを飛ばすチャレンジする機会を用意した。	複数回のチャレンジにより、工夫することへの関心を促し、改善する力を養う機会が得られました。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 8	(取組内容) 世代を超えてともに楽しめる紙ヒコーキの作成、飛ばす体験を行いました。	(効果) 飛ばすことのイメージから、未来を創造することを促しました。
	10	同じステージに立ち、ヒコーキを飛ばす体験をともにする体験を設定しました。	世代を超えて一体感を促し、気軽につながることを感じる機会を創りました。
課題及び今後の展望	市街地で行われやすい講師を招聘してのイベントを田園部である宝塚市西谷地域で実施した。想定より多くの方が参加希望となり人数枠を上げたが、ゆっくり体験したい参加希望者が欠席となった。 少数の個別対応も想定に入れて、より個性を尊重しながら、子ども達の成長に繋がる活動を計画していきたい。		

(活動状況写真)



団体名 宝塚市こども会

団体設立 西暦 2024 年 8 月 10 日

活動分野

設立目的 子ども会活動の振興を図り、体験活動等を通して、子どもの成長、育成及び健康の保持・増進に寄与すること、並びに子育ての理解を深める事により、子どもや保護者が抱える課題を個人の課題として留めずに改善に繋げることを目的とする。

事業名 (地域活性・自治会員加入促進事業(FunFunくらぶ))

団体名	鼓ヶ丘自治会			代表	田中孔明	
協働団体	—					
活動地域	川西市 鼓が滝					
事業の 目的・趣旨	【私たちの置かれている環境】少子高齢化、地域つながりの希薄化、地域の人口減少に伴う自治会員数の減少及び地域の活力低下があり、地域の生活居住環境へのより良い改善への着手の見通しができない状態です。 【進めていくこと】新たなる取り組み、この自治会ならではの取り組みを実施して魅力を発信し市や県に興味を持ってもらえる自治会にしていく。 【目指すべきところ】市にとっても魅力ある地域となり、一自治会ではできない道路環境・子供の地域安全など、生活居住環境の改善へつなげる					
事業内容	・運営組織の結成 自治会内に専門の実行組織を構築し、専任メンバーを選出して事業運営を行う 名称「FunFun くらぶ」 ・各種イベントを実施して地域の活性化を図り、事業目的を達成していく。 一例)「こどもまつり」の開催 開催日時：令和7年9月14日（日） 17:00～20:00 開催場所：地域の自治会管理の公園 内 容：こどもが考えるお祭りを現実のものとしていく。 老若男女が楽しめるお祭りを、こどもと高齢者が関わり合いながら創り上げていく。 お祭り自体だけでなく、お祭りを創り上げていく過程を地域のつながりとして用いていく。 また、最新のIT技術を駆使していままでにないお祭りを創出し地域の目玉としていく。					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要 ※（内容は交付決定前なのでご参考）	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	R7	4	20	（大型シャボン玉をみんなでつくろう）	4	10
		5	20	（公園でどろんこ&魚釣りしてみよう）	4	9
		6	29	地域の川を知ろう／川遊びとバーベキュー	8	34
		9	14	みんなでつくる「こどもまつり」	16	240
		10	26	音と映像で楽しむハロウィン	4	5
		12	21	カラオケ大会	4	14
		12	21	クリスマスまつり	20	230
	R8	1	7	書初め大会	1	20
		3	14	理事会	5	

事業効果	本事業を実施することで、急速に鼓ヶ丘自治会の名前が広がった。その結果、近隣自治会とのコラボイベントの開催や企業との協賛イベントの実施に至り、更に大きなイベントへの企画参加が決まった。 実際の中身として、老若男女を参加対象としたことで、乳幼児～後期高齢者まで様々な年代の方が参加する交流イベントを開催、自治会内での顔見知りも増えたとの声が届いている。		
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標番号) 11	(取組内容) 近隣自治会とのコラボイベントを実施	(効果) イベント開催ができないほどの自治会さんも、イベントに相乗りすることで存続の可能性の見出しに成功
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 9	(取組内容) 地元企業とのコラボイベントを開催	(効果) 自治会と企業が結びつくことで、お互いのリソースを分け合う関係構築に至った
課題及び今後の展望	当自治会が所属する多田東小学校区の中には12の自治会があるが、共同できたのは当自治会を含めて3自治会のみ。イベントの企画・運営などすべてを請け負うことで参加ハードルを下げて、参加に足踏みする自治会さんが多い。どう巻き込んで、皆で元気になっていくかを今後の課題として対策を打っていく。今後としては更に地元企業との繋がりを作り、地域一帯の大型イベントを実施して、地元住民の心を掴んでいく。		

(活動状況写真)



クリスマスまつり



音と映像で楽しむハロウィン



地域の川を知ろう／川遊びとバーベキュー



公園でどろんこ＆魚釣りしてみよう

団体名 鼓ヶ丘自治会

団体設立 西暦2025年 4月13日

活動分野 各種イベント

設立目的 (設立目的)

自治会の中の組織として、FunFun くらぶを設立。少子高齢化、地域つながりの希薄化、地域の人口減少に伴う自治会員数の減少及び地域の活力低下があり、地域の生活居住環境へのより良い改善への着手の見通しができない状態です。新たな取り組み、この自治会ならではの取り組みを実施して魅力を発信し市や県に興味を持ってもらえる自治会にしていく。市にとっても魅力ある地域となり、一自治会ではできない道路環境・子供の地域安全など、生活居住環境の改善へつなげる

事業名	(宝塚西谷 栗園再生プロジェクト)		
団体名	西谷農地再生プロジェクト	代表	塗家 昭彦
協働団体	JA 兵庫六甲 宝塚市果樹研究会		
活動地域	宝塚市大原野地区		
事業の 目的・趣旨	宝塚市北部の西谷地区は、都心部に近くに位置しながら、農村風景が広がるのが魅力であり、地域で生産される農産物は「西谷野菜」として市南部、市街地や周辺の市町でも親しまれている。しかしながら、西谷地区の人口は令和 7 年 2 月で 2,084 人（高齢化率 48.9%）で、毎年 50 人程度の人口減少が続いており、地域の担い手不足による地域の活力低下とともに、空き家や管理が行き届かなくなった農地・里山林等の増加が危惧されている。西谷地区内にて、令和 5 年度に農地所有者に実施したアンケートでも、「近い将来、農業をやめたい」「規模を縮小したい」という声が 5 割を超えるなど、今後も空き農地がますます増加することが見込まれる。 その一方で、主業・副業としての農業や家庭菜園など「農ある暮らし」を求める都市住民が増加しており、西谷地区内の市民農園等を借りたことをきっかけに地域住民と顔見知りになり、空き農地で農業を始めたり、地域の空き家を購入されたりする動きがある。こうした新たに農業を始めたい人に対して西谷地区との関わりをつくることで、農業従事者、あるいは移住者、二地域居住者等として地域を支える新たな担い手を創出することが期待される。 そこで、農業や西谷地区に興味のある都市住民を募集し、地域住民、地元の農業従事者などが協働で、使われなくなった農地の再生活動に取り組むプロジェクトを令和 5 年度に立ち上げた。本事業では、とっかかりとして地域内で 7～8 年ほど耕作されていない栗園の再生に取り組むことで、地域内外の住民の交流から関係人口の創出を図り、さらには地域の新たなプレイヤーを発掘し、地域の農村風景を維持していくことを目指す。		
事業内容	①栗山の再生活動 西谷地区の住民と地域外からの参加者との協働で、定期的に除草作業や雑木の除伐、施肥や水やりを行い、既存樹木および、新たに植付を行った苗木をはじめ、栗山の維持管理を行った。 また、令和 8 年 2 月には地域の農業従事者の指導のもと栗の木の剪定作業を 2 回実施し、参加者のさらなるスキルの向上を図った。3 月下旬には新たな苗木の植付を行い、継続的に栗山が再生していくための活動を行った。 ②新たな参加者の確保と運営組織の充実、メンバーのスキル向上、情報提供 地域外の住民を対象とし、栗栽培や地域住民との交流に興味のある参加者を募集し、本プロジェクト実施に向けた運営組織を充実させた。(令和 8 年 3 月時点で活動が続けるメンバー：第 1 期生 8 組 10 名、第 2 期生 5 組 6 名のメンバーに加え、令和 7 年 10 月の第 3 期生募集で、7 組 12 名のメンバーが新たに加入)。参加者には農業初心者が多く含まれるため、栗栽培の指導を行う農業技術者(JA 兵庫六甲 宝塚市果樹研究会メンバー)を外部講師として招聘した。 また、第 1・2 期生のスキルが徐々に高くなってきており、自主的に活動する意欲がある方も出てきている。参加者には、西谷地域内で地域の方とともに地域にある社会教育施設で園内管理の活動を始める方や兵庫県主催の「地域の編集ラボ in 宝塚西谷」に参加し、西谷地域にある観光施設を運営する方とともに活動する方など、関係人口として活動し始めた。今後も遊休農地・栗園等の情報を提供することで、新たな農業の担い手や地域の方と協力して課題解決を担う関係人口が増えていくようにサポートする。		

	③外部への情報発信 SNS(LINE)で運営メンバーと参加者のグループを立ち上げ、地域情報の発信や栗栽培のノウハウに関する助言など、オンライン上で自由な意見交換ができる場を作ったことで、メンバー間で栗を活用したレシピの情報共有など活動時間外にも積極的に活動が行われた。また、追加メンバーの募集に向けて、西谷地区の移住情報サイト「宝塚にしたにSMOCCA (https://nishitani-iju.com/)」での情報発信等も進めたことで、第3期生募集に関しては募集開始1日で定員に達するなど、本プロジェクトへの関心が高まってきていると感じる。今後も、積極的な情報発信に努め、活動への機運醸成を図っていく。					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	7	4	26	【第2期(令和6年12月から令和7年11月)】 第5回作業。園内の除草作業を実施	5	13
		5	24	第6回作業。園内の除草作業を実施。	5	12
		6	21	第7回作業。園内の除草作業を実施	5	11
		8	23	第8回作業。園内の除草作業を実施	5	8
		9	20	第9回作業。収穫作業1回目を実施。実物を見ながら、品種の見分け方についても学習する。収穫した栗は、作業参加者へ分配。	5	12
		9	27	第10回作業。収穫作業2回目を実施。	5	11
		10	5	第11回作業。収穫作業3回目を実施。	5	12
		10	11	第12回作業。収穫作業4回目（最終回）を実施。計4回の収穫量は、延べ160kg超となった。	5	12
11		29	第13回作業(第2期最終回)。園内の除草作業を実施。作業終了後懇親会を開催し、メンバー相互の交流を図るとともに、次期の活動方針について意見交換を行う。	5	11	
12		20	【第3期(令和7年12月から令和8年11月)】 第1回。第1・2期からの継続メンバー及び第3期参加メンバーを交え、初回ガイダンスを実施。第1期の取組と成果、年間スケジュールの確認、相互の顔合わせなどを行った後、現地の見学を行う。	5	18	
8	1	17	第2回作業。草刈機の操作についてガイダンスを行ったうえ、園内の除草作業を実施。	5	23	
	2	7	第3回作業。園内の除草作業および伐採木の処分を行うとともに、木の剪定方法に関する講座を開催。	5	20	

		2	21	第 4 回作業。園内の除草作業および伐採木の処分を行うとともに、木の剪定方法に関する講座を開催。	5	19
		3	28	第 5 回作業。敷地内に新たな苗木(2 品種 20 本)の植樹を行う。	5	22

事業効果	作業を通して西谷地域内外の方との交流が行われ、参加者の中には、地域にある社会教育施設で園内管理の手伝いに参加されたり、将来的に西谷地域での就農を視野に入れる方など、移住の実現や関係人口の創出、及び地域の活性化につながっていく期待感が高まっている。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 11	(取組内容) 地域内外の交流を通して関係人口創出を図り、将来的な地域の担い手発掘につなげる。	(効果) 作業などを通し、栽培技術を学ぶだけでなく、地域住民や参加者同士のコミュニケーションが生まれている。 参加者の中には既に西谷地域の別の施設で園内管理の手伝いを始めるなど、地域と積極的に関わり始めている方もおり、本取組が関係人口創出に繋がっている。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 1	(取組内容) 農業に興味のある地域外の住民が、地域住民との協働により、栗栽培を進める。	(効果) 農ある暮らしに興味のある地域外の住民が参加し、栗園の再生という共通の目的に向かって取り組むとともに、地域内外の交流を生むきっかけに繋がっている。
課題及び 今後の展望	活動が継続できるよう、担い手及び自主財源の確保を図ることが必要になっている。 多くの参加者は長期的に活動に参画することを希望されていることから、活動場所の管理についてリーダーを担える方を探していくとともに、収穫された栗の一部を販売することや収穫できた栗を事業者へ卸すことで、プロジェクトの自立化を目指していく。		

(活動状況写真)



草刈り作業



収穫した栗の選別作業



1 期に植樹した栗の木の様子



第 3 期初回ガイダンス



栗の木の剪定指導



草刈り指導の様子

団体名 西谷農地再生プロジェクト

団体設立 西暦 2023 年 12 月 1 日

活動分野 まちづくり

設立目的 宝塚市西谷地区の農地・山林等の活用を促進するとともに、地域の担い手を発掘し、地域の活性化に寄与すること。

事業名		松が丘小学校防災クラブ研修会				
団体名	松が丘小学校区まちづくり協議会			代表	古田茂充	
協働団体						
活動地域	三田市松が丘小学校校区					
事業の目的・趣旨	本年 月から松が丘小学校 年生を対象に「松小防災クラブ」を立上げ 回/月 放課後 分 防災について学ぶ活動を予定し、子供達が自助・共助を学び、小学校での防災リーダーをめざす。 夏休みに防災施設にバスツアーで行き、体 学習・訓練を学習する。 松が丘小学校生徒・保護者他対象					
事業内容	・ <u>バス利用による研修会の実施</u> 小学生の防災リーダーを目指すための研修の一環として、夏休みの期間にバス利用による研修会を予定します。 クラブ員だけでなく松が丘小学校などに参加募集する 子供・保護者等の防災スキルの向上に努めます。 全員体 に実施 ・ 行先 三木「兵庫県広域防災センター」 ・ 訓練内容 ①漫画で学ぶ地震防災対策、②蒸気煙体 、③水消火器使用訓練、 ④起震車体 震度 時間 ・ 昼 ・ ホースランド見学 動物とのふれあい体					
スケジュール	実施日 年-月-日			参加人数 人		
					一般参加者	
スケジュール	7			支援者による協議開始 (研修会日時・場所の確定、スケジュールの決定等)	3	
				研修先への申請とバス会社への見積依頼	1	
				参加費・詳細等の決定（一般・小学生等）	5	
				募集チラシ作成、印刷	2	
				募集チラシの配布	教師他	
				参加人数の確定	1	
				参加者への最終必要事項連絡	教師他	
				スタッフ最終確認	5	
				バス研修会の実施	5	
				実績報告等作成	2	
				実績報告提出	1	

事業効果	・防災力の向上。非常時に自ら積極的に対応できるようになる ・共助を学ぶことにより、人との絆、互いを思いやる優しさが生まれる。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	SDGs の推進		
	(目標番号)	(取組内容) 防災教育の向上。 まち協、防災リーダー、地域と協働し地域活性化を図る。	(効果) 共助を学ぶ。 人とのつながりが広がる。
	阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ)	(取組内容) 地域と繋がる。 小学校の防災リーダーから地域のリーダーを目指す。	(効果) 安全・安心の暮らしにつながる。 社会貢献の人材をめざす。
課 及び 今後の展望	もう少し、参加者が増えるよう日程等検討が必要。 より良い学習内容の充実を図り、継続的に実施可能となるようにしたい。 将来的には、他の学校へも拡大できればと考えています。		

活動状況写真

別添の通り

団体名	松が丘小学校区まちづくり協議会
-----	-----------------

団体設立	平成 30 年 2 月 22 日
------	------------------

活動分野	まちづくり
------	-------

設立目的	地域の皆様が安全に安心して住み続けるために住民相互の連携を図り、課題解決に取り組む「明るく元気なまちづくり」を推進する
------	---

松小防災バスツアー写真

日時：令和7年8月24日(日)9:00～15:45

行先：①三木防災センター、②ホースランドパーク

参加：19人（生徒家族、まち協等）



(バス)車中でのゲームや歌を楽しむ

マンガで学ぶ地震対策と地震映像



耐熱耐煙体験



起震車で地震体験

水蒸気の熱気と真っ暗な迷路からの避難！



震度5～7の激しい揺れをみんなで体験。



水消火器による放水訓練



道の駅みきでの昼食



ホースランドで馬にエサやり



ホースランドで馬と写真

今年から松が丘小学校防災クラブをはじめました。
夏休みにバスツアーを計画して、防災の学びと動物との触れ合いを体験！

事業名							(楽器体験や落語・漫才体験を通じて子どもと大人のはじける笑顔づくりプロジェクト)						
団体名			宝塚きづなひろば				代表		宮脇 英明				
協働団体													
活動地域			宝塚市、西宮市										
事業の 目的・趣旨			コロナ禍が終了後、子どもや大人そしてシニアの世代交流やふれあいの場が減少し、コミュニケーション不足や感情表現が表面に出ていない。 このような現状を打破するため、楽器や漫才・落語などの体験会を通じて「心」と「心」を結び笑顔のあふれる街づくりをしたい。										
事業内容			「子どもも大人もシニア世代も楽器・漫才・落語体験を通じて笑顔がはじけるまちづくり」をモットーとして活動をしていく。										
スケジュール			実施日（年-月-日）			事業概要			参加人数（人）				
									スタッフ		一般参加者		
			2025	4	29	楽器体験会			2	10			
			2025	8	31	〃			2	8			
			2025	9	27	落語体験ワークショップ（2部構成）			2	10			
			2025	11	30	こどものための音楽体験会			2	18			
			2025	12	13	落語・漫才体験ワークショップ（2部構成）			2	8			

事業効果	全体で延べ 54 名の親子に参加いただき、素晴らしい笑顔と楽器や漫才などの体験を通じて、親子のきづなづくりと参加者の交流が図れた。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 1 7	(取組内容) 宝塚市内や西宮市内の大学生が演奏団体のメンバーに講師をした	(効果) 若い世代の親子に参加していただいた
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 1 4	(取組内容) 楽器体験、漫才・落語体験を多世代に取組んでいただいた	(効果) 笑顔とにぎわいを感じた
課題及び 今後の展望	講師の先生方との日程調整や会館利用の日程調整がうまくいかず当初の予定より事業実施が減少した。今後は早い日から日程調整をして活動をしていきたい。		

(活動状況写真)

①4月29日楽器体験会



②楽器体験ワークショップ9月27日



宝塚きづなひろば ③11月30日こども会



④第3回落語漫才体験ワークショップ

12月13日(土)



団体名 宝塚きづなひろば

団体設立 西暦 2016 年 4 月 1 日

活動分野 まちづくり、子どもの健全育成、芸出文化、歴史

設立目的 子育て中のお母さんお父さんの悩みやほっとする場、きづなを大事に夢のある場を提供することを目的とする

事業名		マルシェ de グリーフケア				
団体名	こころのケアの会			代表	今井薫	
協働団体	無					
活動地域	宝塚市					
事業の 目的・趣旨	「グリーフケア」を周知するイベントを開催して 年目である。だれもが大切な人やモノを失う経 をする。辛く悲しい思いに蓋をするのではなく話すことで楽になる場所があることを知ってもらいたい。今年はマルシェとすることでより地域の人に周知できて関心を持って けるのではないかと期待する。「グリーフケア」は、セルフケアだけでなく、自分の周りの人を思いやる社会を目指しています。また、一人一人の状況を想像する優しい社会になることを目指しています。					
事業内容	・広報活動の強化。神戸新聞に「マルシェ de グリーフケア」を紹介の記事が掲載された。市の公共施設にチラシを置いていただけた。市の掲示板に貼っていただけた。 ・ボランティアスタッフに上智大学グリーフケア研究所の同期が 人。 ・「マルシェ de グリーフケア」 開催日時 令和 年 月 日 開催場所 平林寺会 宝塚市社町 、成福院 車場 内容 講演会、紙芝居、コンサート、ワークショップ、手作り小物販売、お洋服の交換会、マチの保健室、終活ブース、キッチンカー 台。日没後、ピンクアンドブルーリボン運動に賛同しライティング。 参加者 人 内 講演会参加者 名 キッチンカー含まず					
スケジュール	実施日 年-月-日			事業概要		参加人数 人
						一般参加者
	7	6	18	スタッフと終活ブース担当者打ち合わせ	人	160 人
		7	16	スタッフ打ち合わせ	人	
		8	20	スタッフ打ち合わせ	人	
		9	17	FM 宝塚に宣伝の為ゲスト出演、後打ち合わせ	人	
		9	28	ボランティアスタッフと当日の配置、内容確認	人	
		10	13	マルシェ de グリーフケア 開催	人	
	10	15	スタッフ反省会	5 人		

事業効果	昨年までは 20 30 人程度の小規模な集まりだったが、マルシェとすることにより、多種多様な人が集まることになった。上智大学グリーンケア研究所の同期がボランティアスタッフとして加わるにより声がけや相談も聴くことができた。それに伴い集客も増えた。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	SDGs の推進		
	(目標番号)	(取組内容) マルシェとしたことで多様な人が加わった。	(効果) マルシェとしたことで集客が増え、周知できた。
	阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ)	(取組内容) 多種多様な人がマルシェに集まることにより「グリーンケア」を周知できた。	(効果) ボランティアスタッフが声がけや個別相談に対応できた。
課 及び 今後の展望	グリーンケアの周知をさらに広げたい。必要な人の目に留まるようにパンフレットを増刷し公共の場に置きたい。又、同じような活動をしているグループと繋がり地域のグリーンケア マップを作り、市のおくやみコーナーや病院などに置きたい。「こころのケアの会」のホームページを作り発信していきたい。		

活動状況写真



小さな念珠づくりのワークショップ。



「いのちの講演会」



ピンクアンドブルーリボンのライティング。

団体名 こころのケアの会

◆-----◆
団体設立 西暦 2022 年 5 月 25 日

活動分野 保険・医療・福祉

設立目的 大切な人やモノをなくした悲しみを語り合える安心安全な場所をつくり、話を聴かせていただくことを目的とする。

事業名		(里山の保全とじゅんさいを活用した地域活性化)				
団体名	竹あかり実行委員会			代表	加藤 仁哉	
協働団体						
活動地域	宝塚市					
事業の 目的・趣旨	じゅんさい池周辺湿原は古くからじゅんさいが生育されていたが、現在は池周辺が荒廃しており再整備が必要。じゅんさい池周辺の復興とじゅんさいの復活を通して、西谷の活性化につなげる					
事業内容	じゅんさい池周辺を整備して、じゅんさいの生育状態の確認及び保育 1. じゅんさい池周辺を中心とした里山の景観整備 2. じゅんさい育成研修 3. じゅんさいの育成と収穫など（収穫できれば） 4. 西谷の名産品へつなげるための調査・研究 5. じゅんさい池付近の古民家を活用した交流人口増加のためのイベント開催 6. 貴重な生物資源のある地域として西谷をPRし地域活性化を図る ※万博・アフター万博枠にて申請いただく場合、大阪・関西万博及びアフター万博に向けて交流促進をどのように図るか具体的に記載してください。					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ 一般参加者	
	7年～ 8年	4月～ 3月	第一 日曜日	定例ミーティング （進捗状況報告、方向性確認）	10人	
スケジュール	7年	6月	22日	波豆池周辺環境整備を実施した。		
			7月	5日		〃
			19日	〃		
		8月	2日	〃		
			22日	〃		
			27日	〃		
		9月	31日	〃		
			10月	24日		〃
				3日		〃
		8年		2月		8日
			14日			〃
			30日			〃
			11月			1日
	8年	12月	6日	〃		
2月			23日	環境整備とジュンサイ池調査を実施した。		
3月			8日	ジュンサイ池調査を実施した。		
		29日	波豆池周辺環境整備（柵の整備）を実施した。			

事業効果	● 1年でじゅんさいの復活は叶わなかったが、池周辺の環境整備に繋がった。 ● ボロボロだった柵を安全につながるよう修繕した。		
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標番号) 15	(取組内容) 絶滅危惧種の保護	(効果) 絶滅の恐れのあるじゅんさいの復活に向けて活動していたが、想定外にじゅんさいがなかった。次年度池の底にじゅんさいがあると仮説を立てて池の水を抜いて復活に向けて動いていく。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 5	(取組内容) 5 じゅんさい池周辺の整備を実施した。	(効果) 5 眺望も素晴らしい池を訪れやすいよう環境整備を行った。
課題及び 今後の展望	池の調査を実施したが、じゅんさいが確認できなかった。 今年度は、周辺の環境整備をするにとどまった。 池の底にじゅんさいがある場合、そこから復活の可能性があるため今後は池の水を抜いて環境整備を行い、じゅんさいの復活を目指して活動を継続する。		

(活動状況写真)



団体名 竹あかり実行委員会 西谷里山部

団体設立 西暦2024年11月1日

活動分野 環境保全

設立目的 「宝塚市 西谷周辺の持続可能な環境保護」「人と人との交流」「自然との共存の模索と観光資源の創造」

一般事業枠

事業名

宝塚温泉まつりー地域の魅力を再発見、コミュニティの発展と次世代育成

団体名	宝塚温泉まつり実行委員会			代表	塩川 恵造	
協働団体	宝塚市 宝塚教育委員会、宝塚第一小学校区まちづくり協議会 宝塚市観光賑わい課、宝塚自治会、宝塚南口自治会、宝塚温泉旅館組合、アサヒ飲料、ナチュラルスパ 若水					
活動地域	宝塚市中心市街地（武庫川河川敷、公民館、小学校）					
事業の目的・趣旨	目的・趣旨 （１）宝塚温泉など街の履歴や歴史、温泉文化を次世代に継承 （２）温泉を広く周知して賑わいを創出して観光や地域の活性化 （３）祭りを中核に準備や本番イベントで「相利の精神」で“官民の協働のまちづくり” （４）地域の魅力を再発見、顔の見える関係で地域コミュニティの発展と次世代育成					
事業内容	4月開催の宝塚温泉まつりの実行委員会約100人。当日参加市民約1000人でにぎわう。地元神社の神事、子ども御輿が旧温泉街、湯本町を練り歩き。メイン会場である武庫川河川敷会場では、温泉太鼓、花柳流日本舞踊、フオークダンス、宝塚音頭の総踊りなど土地の歴史や文化を市民が体感しました。まつりは5年目、春の恒例行事として定着。地域の活性化、伝統文化の継承、次世代育成に寄与しています。 阪神の地域ビジョン2030での提唱の1つに、「まちなかのにぎわいを創出（17）」がありその手法として地域の資源を共有し、地域住民、企業、教育機関、団体やNPO法人、行政などが共創（コークリエーション）し、実現に向けて取り組むとあります。温泉まつりは、温泉などの地域資源を共有し奈良時代創建の神社、地元自治会、地元商店、観光協会、旅館組合、地元中学生などで実行委員会を創り、参加団体が「相互利益」を得られるように設計しました。 特筆すべきは、夢づくり補助金を活用し祭りが継続でき、さらに日常活動として、温泉写真展、様々な階層の今昔まち歩きなどを展開、多様な団体から担い手が見えてきたことです。ビジョンの提唱と補助金のおかげで持続可能な事業として展望が見え続けます。なお、祭り終了後、「今昔まち歩き」や各種イベントに温泉まつりとしてブース出店し写真展など展開しました。					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	2024年			宝塚温泉まつり事務局会議 数回	5人	0人
	2025年	1	25日	第1回実行委員会：まつりの概要、冊子年間計画	20人	14人
		2	21日	第2回実行委員会：まつり広場企画、ブース出店	23人	
		3	22日	第3回実行委員会：チラシ確定広報スケ、担い手	25人	
		4	19日	第4回実行委員会：直前準備確認	28人	
		4	26日	宝塚温泉まつり当日	125	1000人
		6月	3日	宝塚第一小学校小学校3年（300人児童参加） 「トレジャーハンター」今昔まち歩き	5人	200人
		6月	5日	宝塚第一小学校区まちづくり協議会 地域住民対象、左岸地域まち歩き	5人 4人	45人 45人
		7月	12日	ウイルキンソン炭酸の日（宝塚ソリオフロア出店	4人	1000人
		7月	20日	清荒神タイフェス 温泉まつりとして出店	4人	1000人
		7月	27日	温泉写真展、文化芸術センター1階ギャラリー、	4人	500人
		8月	29日	温泉写真展 中央公民会1階通路	4人	500人

事業効果	企画書3つの効果はほぼ達成。「宝塚ホテル跡タワマン転入住民」は4月引越で無理があり ○次世代を担う子どもたちに、温泉の歴史・文化、自然の恵みに気づく心を継承できる。 ○コミュニティの発展。具体的には温泉全盛期を知る住民と震災後転居した住民の共創。 ×宝塚ホテル跡タワマンに転入する新住民を「協働のまちづくり」に巻き込む ※補助金を活用し祭りが継続でき、さらに日常活動として、温泉写真展、様々な階層の今昔まち歩きなどを展開、多様な団体から担い手が見えてきたことです。		
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標番号) SDG11と17	(取組内容) 「住み続けたいまちづくり」 「パートナーシップ」	(効果) ・温泉まつり実行委員会約100人。当日参加市民約1000人でにぎわう。 ・宝塚市が都市計画としてWS形式で市民参加で「街を楽しむ事業」を立ち上げた。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) まちなかに ぎわいを 創出(17)	(取組内容) 地域の資源を共有し、地域住民、企業、教育機関、団体やNPO法人、行政などが共創。	(効果)地域資源を共有し神社、自治会、地元商店、観光協会、地元中学生などで実行委員会を創り、参加団体が「相互利益」を得られる体験をしました。来年も継続確認。
課題及び 今後の展望	阪神の地域ビジョン2030のシナリオには、5「未来まで続く花と緑と里山」は、温泉まつりは、武庫川河川敷の景観や自然の恵みに感謝するお祭りとして伸びしろがあります。また、「再発見で魅了する阪神間モダニズム」は温泉文化の継承と親和性があります。温泉太鼓、花柳流日本舞踊、宝塚音頭の総踊りはこれに該当します。		
	また、9、10の「“つながり”に参加できるまち」をまつり実行員会が一番大事にしている相互理解、相互利益です。今回の事業で担い手は広がりました。		
	最後に15「訪れたい訪れやすい阪神地域ツーリズム」は地域や小中の児童生徒からシニア世代まで今昔まち歩きを継続し、今後阪神間のマイクロツーリズムに発展する可能性もあります。古き時代街並みの写真展にはシニア世代が集まり、若い世代と会話する姿が毎回見られます。これは5「多様な人々が住みやすいまち」に該当します。		
	宝塚温泉まつりの事業コンセプトは「地域の魅力を再発見、コミュニティの発展と次世代育成」です。阪神北夢づくりのビジョンとシナリオの精神を学び、共創の精神で地域活動を継続します。		
	＜課題1＞ 応募段階で宝塚温泉のイメージキャラクターとして「湯塚かえる君」を広める計画しましたが、資金難が見込まれ全く手つかずで、とん挫しました。湯塚かえる君とは、宝塚市在住の漫画家、細川貂々さんが生み出したもので「ナゾの湯のまち宝塚」などのナビゲータ役のアニメキャラクターです。観光のイメージキャラクターとして湯塚かえる君をユルキャラとして広げ宝塚温泉を関西エリアの住民にひろげたいと考えました。 (実施時期) 2025年10月～12月 (資金調達) 制作資金70万円集める仕組みを考える (成果目的) 宝塚温泉が今もあることを告知しマイクロツーリズムへの扉をひらく (課題) 協力団体をどう呼び込むか？宝塚温泉旅館組合、市民からの寄付		
	＜課題2＞宝塚ホテル跡タワマンに転入する新住民を「協働のまちづくり」に巻き込む (対応) 南館完成が来年4月で引越。2026年か2027年、住民理事会ができてから対応		

(活動状況写真) 温泉まつり 2025 年



団体名 宝塚温泉まつり実行委員会
<https://www.takarazuka.info/h>

団体設立 西暦 2020 年 12 月

活動分野 まちづくり (任意団体)

設立目的

宝塚温泉まつり 1990 年代に途絶えたお祭りを 2021 年に市民が再構築。かつては「温泉の街」としてにぎわった宝塚のまち。
 宝塚に恵みを与えてくれている温泉・炭酸・自然に感謝することを目的に明治 20 年 5 月の開湯を記念しこの時期に武庫川河川敷
 でお祭りを実施。温泉文化の伝承と交流を目的とし、地域活性化

事業名 (逆瀬川ホタル育成場所ピカピカランドの整備)			
団体名	宝塚エコネット	代表	梶原 暢元
協働団体			
活動地域	宝塚市逆瀬川		
事業の 目的・趣旨	宝塚の逆瀬川は生物多様性の地区であり過去、多くのホタルが生息していたと見られる。住宅地の拡大により照明などが多くなり、ホタルが生息できない環境となっている。ホタルが生息できる河川的环境整備を目的としている。		
事業内容	逆瀬川の河川清掃を実施することで、ホタルの生息場所を確保する。 また、ピカピカランド内でのホタルの幼虫を育成し6月には、 ランド内のホタルを一般市民に鑑賞していただく。 秋には近隣の小学校の環境学習の一環として活動として幼虫の放流会も実施している。		
スケジュール	実施日 (年-月-日)	事業概要	参加人数 (人) スタッフ 一般参加者

2025	4	27	逆瀬川河川敷清掃・ホタル幼虫の確認	2	
	5	12	遮光シートと安全ロープの取付	4	
	5	26	小林清心女学院3年生校外学習の講義	4	44
	5	26	ホタル案内看板取付	4	
	5	27		5	
	1	1	ピカピカランド一般公開		
	6	15	ピカピカランド一般公開	20	200
	6	18	西山小学校3年生校外学習の講義		
	6	28	逆瀬川河川敷清掃・遮光シート取り外し	7	109
	8	10	宝会館 夏休みこども学習教室	5	
	9	27	逆瀬川河川敷清掃	8	15
	10	11	逆瀬川河川敷清掃・ピカピカランド清掃・幼虫確認	9	2
	10	13	西山小学校による校外幼虫放流会	3	
	10	17	西山小学校による校外幼虫放流会	8	106
	10	27	小林清心女学院による校外幼虫放流会	4	
	11	14	逆瀬川河川敷清掃・ピカピカランド清掃	7	38
	12	27	逆瀬川河川敷清掃・ピカピカランド清掃	4	
	1	21	ホタル放流会の写真展示	7	2
	2	2	宝塚市環境パネル展参加	4	
	3	14	逆瀬川河川敷清掃・ピカピカランド清掃	5	2

事業効果	宝塚市市街地でもゲンジボタルが十分生息できる場所となっている。 ピカピカランド内でのホタルの幼虫を育成し6月には、ランド内のホタルを一般市民に鑑賞していただく。		
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標番号) 15	(取組内容) ゲンジボタルの保護と育成を通して、環境保全と地域の小学校 環境学習などに協力する。	(効果) 逆瀬川の自然環境を保全に効果を上げるとともに、小学校の環境学習に対応できた。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 5	(取組内容) ゲンジボタルの保護と育成を通して、武庫川河川流域の環境保全を実施する。	(効果) 逆瀬川の清掃により、環境保全を実施できた。
課題及び 今後の展望	逆瀬川だけではなく、宝塚市内の河川でも蛍が多く生息している。それらについても今後調査を実施し、ホタル生息の町としてアピールしていきたい。		

(活動状況写真)

別紙参照

団体名 宝塚エコネット

団体設立 2000年4月

活動分野 環境ボランティア

設立目的 私達はボランティアグループとして、“足元から地球規模まで幅広い環境問題を考え、地域の人々と共に行動し、自然を身近に感じられる心とむ街づくりを目指す”ことを目的としています。

4月27日

逆瀬川河川清掃・ホタル幼虫確認



5月12日

遮光シートと安全ロープの取り付け



5月26日

小林聖心女学院3年生ホタル学習講義



5月26日

ホタル案内看板取り付け



5月27日 一

6月15日 ピカピカランド一般公開



6月18日

西山小学校3年生ホタル学習講義



6月28日

逆瀬川河川敷清掃・遮光シート取り外し



8月10日

宝会館 夏休みこども学習教室



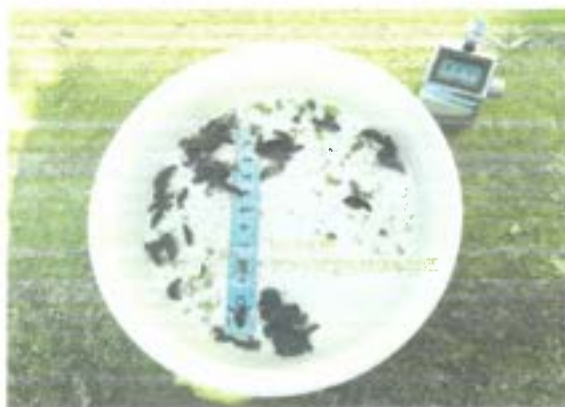
9月27日

逆瀬川河川敷清掃



10月11日

逆瀬川河川敷清掃・ピカピカランド清掃・ホタル幼虫確認



10月13日 10月17日

西山小学校によるホタル幼虫放流会

10月13日



10月17日



10月27日

小林聖心女学院によるホタル幼虫放流会



11月14日

逆瀬川河川敷清掃・ピカピカランド清掃



12月27日

逆瀬川河川敷清掃・ピ 12月27日



1月21日

ホタル放流会の写真展示



2月2日

宝塚市環境パネル展参加(ピピア売布)



3月14日

逆瀬川河川敷清掃・ピカピカランド清掃



事業名		(里山 time trip ~こどもたちの夏~)				
団体名	宝塚市西谷地区まちづくり協議会 地域活性化部会			代表	安場 翼	
協働団体	えすぽツーリスト					
活動地域	西谷地区					
事業の 目的・趣旨	西谷地域では、都会から近い(大阪から電車で 30 分)という立地条件と古き良き里山文化や豊かな自然を活かして、都会の方々がホッと一息つける時間やこどもたちが自然の中で自由な経験を積める機会を提供していきたいと考えています。今回は「阪神北☆夢づくり応援事業」の枠組みを活用させて頂きながら、こどもたちを迎え入れる取り組みの一步を踏み出していきたいと考えています。昨年度から「ひょうごフィールドパビリオン」の建付けの下に取り組んできましたが、それらのフィードバックを活かしながら今年度の取り組みを進め、来年度以降も継続して西谷で多くの人を迎え入れられる体制や仕組み作りを進めます。					
事業内容	8/24 に宝塚自然の家を活用して、親御さんと離れてこどもたちだけで自然体験や里山体験をできるプログラムを実施しました。広報・集客の部分では、宝塚市広報を活用させて頂き、60 件を超える応募があった中で先着 30 名をお迎えした。 西谷の情報発信力強化の施策では、地域のお母さん 3 名に協力を頂き、収穫祭などの西谷でのイベントに関する記事や、西谷で活躍する方々の取材記事を作成した。 詳細は下記の通り。 里山 time trip ~こどもたちの夏~ 開催しました！ トライやるウィークで広がる無限の可能性！ 「つながり」が教えてくれた新しい私 ~西谷で見つけた子育ての喜び~ 「学校おうえん団は、楽しい！」 「西谷にじいろマルシェ」で地域の人たちに楽しんでもらいたい！ 🍁 西谷の秋を楽しむ「収穫祭」開催 ~事前予約特典あり~ ふるさとの景色を愛する、真心込めたお菓子屋さん 宝塚西谷収穫祭 2025 レポート					
スケジュール	実施日 (年-月-日)			事業概要	参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
	2025	7	30	トライやるウィークで広がる無限の可能性！	10	30
	2025	8	13	「つながり」が教えてくれた新しい私		
	2025	8	24	里山 time trip		
	2025	8	27	「学校おうえん団は、楽しい！」		
	2025	9	8	「西谷にじいろマルシェ」		
	2025	9	23	ふるさとの景色を愛する、真心込めたお菓子屋		
	2025	11	2	西谷の秋を楽しむ「収穫祭」開催		
2025	12	2	宝塚西谷収穫祭 2025 レポート			

事業効果	里山ラボ、そらまめ、西谷仕事人、えすぽツーリストなど多様な団体との連携体制を構築し、こどもたちだけを預かる継続可能なプログラムモデルを確立しました。募集では定員を大きく上回る応募をいただき、西谷での里山体験への高い需要を確認できました。参加後のアンケートでは、こどもたちから「楽しかった」という声が多数寄せられ、親御さんからは「親元を離れて自然の中で過ごす貴重な経験ができた」と教育的観点からも高い評価をいただきました。情報発信では、地域の方々へのインタビュー実施から AI を活用した記事作成までの一連の流れを確立し、継続的な情報発信の基盤を整えることができました。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 4	(取組内容) 阪神地域のこどもたちへ自然学習の機会を提供した	(効果) 子どもたちに日頃ではできない自然体験、親元を離れた体験を提供できた
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 9	(取組内容) 西谷地区の自然や里山文化を活かした体験プログラムを実施した	(効果) 自然の中で自由に遊ぶ体験を提供し、相応の参加費をお支払い頂き、持続可能なビジネスモデルの足掛かりができた
課題及び 今後の展望	補助を受けずに継続していけるよう、需要を捉えたプログラムの開発を継続することや、地元住民・関係団体との関係強化していくことが求められる。プログラムを実施するためには、団体を輸送する交通が不可欠であり、バス廃止の問題の動向も注視したい。2026 年度は補助金を受けずに、月 1 回のイベント企画・実行を目指す		

(活動状況写真)



団体名 西谷地区まちづくり協議会地域活性化部会

団体設立 西暦 2022 年 4 月 1 日

活動分野 情報発信、イベント企画

設立目的 西谷地区の地域活性化

事業名		(三田陶芸の森。作品発表会&茶室公開)				
団体名	三田陶芸の森。	代表	森口 誠			
協働団体						
活動地域	三田市					
事業の目的・趣旨	かつては世界三大青磁とまで言われた名品「三田青磁」を、今によみがえらせ、より知名度を上げていく事によって、三田独自の伝統工芸品としての産業振興を図る。それにより三田市及び兵庫県全体の観光振興にも寄与し、また関西万博のフィールドパビリオンとして経験した国内外の様々なお客様を受け入れるための体験プログラムをさらに、磨き上げ、提案していく。					
事業内容	① イベント「三田陶芸の森。作品発表会&茶室公開」の開催。 ・開催日時：令和7年11月8日(土)、9日(日) 10時～17時 ・開催場所：三田陶芸の森。 ・内容：通常の陶芸体験、スクール生の作品発表と販売、茶室公開、呈茶。 ・参加者延べ300名 ② 伝統美術工芸品 学芸員 野入 昭吾 講演会「三田青磁と茶道」 ・開催日時：令和7年11月9日(日) 9時～10時 ・開催場所：三田陶芸の森。茶室前 ・内容：三田地区の茶道の先生およびそのお弟子さんの方々を対象に、三田青磁と茶道をテーマに講演会を実施 ③ 三田青磁の知名度を上げ、アフター万博も誘致できるよう、イベント告知を広く行い、知名度・関心度の向上を図る。					
スケジュール	実施日(年-月-日)		事業概要	参加人数(人)		
				スタッフ	一般参加者	
	7	7	1	社内打合せ	4	300
		7	4	観光協会との打ち合わせ	2	
		7	11	社内会議①：開催概要、開催体制について	5	
		7	15	社内会議②：イベント内容について	5	
		7	18	社内会議③：イベント詳細について	5	
		7	18	ちらし・ポスター業者打合せ・発注	3	
		8	5	ちらし・ポスター掲示開始	3	
		10	21	社内会議④：当日の開催体制について	5	
		11	7	会場設営等の開催準備	4	
		11	8・9	「三田陶芸の森。作品発表会&茶室公開」開催	5	
		11	11	社内会議：開催結果報告・反省会	4	
	11	17	実績報告書作成	2		

事業効果	通常の陶芸体験ではなく、スクール生の作品発表会と茶室公開をメインとする事により、とにかく、陶芸に興味のない方にも、気軽にご参加いただける内容としました。また、近隣の湊川相野学園様の茶会イベントと日程を合わせる事により、お互いのイベントの相乗効果もありました。		
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標番号) 8	(取組内容) 伝統的工芸品としての地位を確立させ地域の経済成長と雇用促進を目指す。	(効果) 環境と両立しうる経済成長を目指し、地域の産業振興、雇用促進に努める。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 2	(取組内容) 年齢制限、経験の有無は一切関係なく、学びなおしの取組等へつなげていく	(効果) 三田陶芸の森。をきっかけに新規就労や起業のきっかけや支援となる。
課題及び今後の展望	企画内容を決定するのに時間がかかり、チラシを各関係機関に配布したりする時間が無く、本来ならもっと集客できたと思います。今後も三田青磁の知名度を上げていきたいと思えます。		

(活動状況写真)



イベント用茶室



販売展示コーナー

団体名 三田陶芸の森。(合同会社三田陶磁社)

団体設立 西暦2023年5月1日

活動分野 伝統工芸品の製作・普及

設立目的 世界三大青磁の一つとも言われる「三田青磁」を中心とした三田焼の展示、体験施設。陶芸体験・陶芸スクールを通じて三田青磁の歴史と魅力を広める。



イベントチラシ



呈茶



作品展示コーナー

事業名 (プロと子供たちで紡ぐ地域能楽の伝統—民話狂言の新作上演)

団体名	能楽と郷土を知る会			代表	朝原 広基		
協働団体	なし						
活動地域	兵庫県三田市						
事業の目的・趣旨	能楽は日本を代表する芸能とされるが、現在、広く享受されているとは言い難い。現在の三田市域を含む有馬郡は、室町時代から能楽が上演されてきた歴史を持ち、有馬郡ゆかりの芸能といえる。三田地域の民話を基にした狂言を新たに創作し、プロの能楽師によって上演できる形に作る。演目は、千丈寺湖が象徴する土地の恵みを考える作品を予定し、地域の子供たちが参加する形で上演する。						
事業内容	本事業では、新作民話狂言《うばが谷》の創作と子供たちへの指導、ならびに披露公演の開催を軸に、地域の伝統文化を次世代へ継承する取組を実施した。新作狂言《うばが谷》は、先立って2025年2月開催した「子ども民話ワークショップ」で選定された三田市藍本の民話「うばが谷の水」を基に、能楽師狂言方大蔵流・善竹忠亮氏ほかと協議を重ね、台本・セリフ・型を制作したものである。						
	ただし、この民話「うばが谷の水」は民俗学などでいう「棄老伝説」の一種の深刻な物語であり、狂言として再構成するにあたり、慎重な検討を要した。そのため、当初計画していた夏休み期間の短期集中稽古の後、9月発表会実施は見直し、夏期は古典演目による基礎稽古に充てることとし、10月から2026年1月に、学校などの授業期間であるため、放課後の時間に月2回程度の継続的な稽古へと計画を変更した。また、新作狂言《うばが谷》は11月24日の「こうべさんだゆかりの笑いの伝統芸・狂言 鑑賞と体験」において、プロによる試演を行った。						
	これらの成果発表として、令和8年1月24日に三田市有馬富士自然学習センターで公演を実施した。同会場は、ひょうごフィールドパビリオン「千丈寺湖の恵みがもてなす体験型観光プログラム」の指定地域内である。公演では善竹忠亮氏らプロの能楽師狂言方と子供たちが共演し、家族や地域住民、能楽・郷土史の愛好者に対して、地域文化への理解と関心を高める機会となった。						
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要		参加人数（人）	
						スタッフ	一般参加者
	2025	2	22	（子ども民話ワークショップ@三田市立図書館本館）		4	10
	2025	5	9	実行委員・出演者 第1回協議		7	
	2025	5	28	実行委員・出演者 第2回協議		7	
	2025	6	4	参加者募集チラシ印刷完了・配布開始		4	
	2025	7	3	実行委員・出演者 第3回協議		7	
	2025	8	5	こうべさんだ能・狂言・講談子ども教室@三田市ウッディタウン市民センター／欣勝寺		9	30
	2025	8	27	（三田市桑原）（全7回〔講談のみ全6回〕）			
	2025	8	5	実行委員・出演者 第4回協議（以後、子ども教室後に協議を開催）		7	
	2025	8	19	講座「能・狂言ってなに！」@三田市富士ヶ丘コミュニティセンター		2	21
	2025	10	2	こうべさんだ狂言子ども教室@三田市ウッディタウン市民センター（全8回）		7	9
	2026	1	22	こうべさんだゆかりの笑いの伝統芸・狂言 鑑賞と体験@欣勝寺（三田市桑原）		7	30
	2026	1	24	こうべさんだ狂言子ども教室発表会@三田市有馬富士共生センター		7	50

事業効果	事業を通じて、地域の伝統文化への関心が着実に高まった。新作民話狂言《うばが谷》の創作と上演により、三田地域の歴史的背景を、能楽とともに参加者に共有できた。この作品は今後も上演が可能であり、何よりの成果と言える。子ども狂言教室では、基礎的な所作や発声を学ぶとともに、継続的な稽古を通じて新作狂言を上演可能な水準にまで仕上げることができた。また参加児童が伝統文化を身近に感じ、また家族や地域住民にも地域の歴史や民話への関心を喚起した。特に、ひょうごフィールドパピリオンであった千丈寺湖畔の有馬富士共生センターで伝統文化体験を実施し、地域文化に触れる機会が生まれた。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 4 11	(取組内容) プロの能楽師による直接指導 地域の子供たちへの指導を目的にした、歴史・伝承を元にした民話狂言	(効果) 能楽師による直接指導を通じて子どもたちの学びを深め、地域の歴史・伝承を基にした民話狂言の創作と指導により、持続可能な地域文化の継承と活用に寄与した。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ) 8 14	(取組内容) 能楽と三田とのゆかりと伝統地域に伝わる民話を元に狂言を新作上演	(効果) 芸能と地域の歴史的ゆかりを発信し、子どもたちが伝統文化を学ぶ機会を創出。さらに、創造的な文化環境づくりと将来の住民参加の基盤形成にもつながった。
課題及び 今後の展望	本事業を進める中で、地域文化の継承に向けた基盤づくりが進んだ一方、継続的な活動として定着させるための課題も明らかになった。とりわけ、新作民話狂言の創作から上演までを担う体制を維持するには、指導者層の確保や、子どもたちが継続的に参加できる環境整備が不可欠である。今後は、三田市の文化観光資源としての展開や、市内外での上演機会の創出など、地域ブランドの発信手段として生かす取り組みへと発展させていきたい。		

(活動状況写真)

こうべさんだ狂言
こども教室の指導風景

プロと子どもの共演（発表会にて）

団体名 能楽と郷土を知る会

団体設立 西暦 2016 年 3 月 20 日

活動分野 芸術文化・歴史

設立目的 それぞれの地域に伝わる能楽の記録や記憶を掘り起こし、地域の歴史意識と一体にして広めることを目的に設立。

事業名 (清和源氏 侍体験<First SAMURAI> イベント in 多田神社)				
団体名	竹あかり実行委員会		代表	加藤 仁哉
協働団体				
活動地域	川西市			
事業の 目的・趣旨	団体の活動を通して「国内外への清和源氏の周知」、「観光資源の創造とまちづくり」 「清和源氏の歴史の継承」をテーマに、地元清和源氏発祥の地多田はもとより川西市の 観光活性化に繋がる団体になることを目的とする。 ●「国内外への清和源氏の周知」 川西市の多田神社は、清和源氏発祥の地として鎌倉時代から江戸時代まで武運長久の 勅願所として、時の権力者が訪れている由緒ある神社である。武家の祖としての多田神 社に地域住民が、誇りを持つよう、広く周知を行う。大阪万博のために海外から訪れた 外国人に対しても大阪近郊からのアクセスの良さをアピールし、積極的に発信を行う。 子ども達をはじめ地域住民の多文化共生への理解へもつなげる。 ●「観光資源の創造とまちづくり」 本事業を地元清和源氏発祥の地多田のアクティビティとして確立させ、多田神社周辺 の観光資源（アクティビティ）やまちづくり（経済の活性化・景観づくり）の一つとし て一役買うことができるよう努める。 ●「清和源氏の歴史の継承」 団体の活動を通して、地域の歴史を子ども達をはじめ地域住民が体感する場を創出し、 地元愛をより深める機会を作り上げる。また交流を通して多田発祥清和源氏や川西市 の歴史や文化を伝えていく。			
事業内容	● 多田神社で体験イベントを開催 ・ 居合術剣士による演武披露 ・ 羽織袴衣装を身に着け、簡単な型を通して武道体験 ・ 多田神社の歴史を現地で学ぶ ● 日本の美徳である武士道の道徳観や価値観の習得 ● 外国人による多田神社や体験イベントの SNS 発信 ・ YouTube、Instagram など ※万博・アフター万博枠にて申請いただく場合、大阪・関西万博及びアフター万博に向 けて交流促進をどのように図るか具体的に記載してください。			
スケジュール	実施日（年-月-日）	事業概要	参加人数（人） スタッフ （ボランテ ィア含）	
			一般参加者	

	7 年	4 月	6 日	多田神社イベント開催及び終了後定例ミーテ	1 0	5
		5 月	4 日	ィング	1 1	1 0
		6 月	1 日	〃、動画撮影	1 3	1 5
		7 月	6 日	〃	9	8
		8 月	3 日	〃、動画撮影	9	1 2
		9 月	7 日	〃	1 1	3
		1 0 月	5 日	〃	1 2	5
		1 1 月	2 日	〃	8	7
		1 2 月	7 日	〃	7	4
	8 月	1 月	1 1 日	〃	1 3	1 0
		2 月	1 日	〃	1 0	6
		3 月	1 日	〃	9	4

事業効果	・国内外への清和源氏の周知による地域活性 ・市民のイベント参加による清和源氏の歴史の継承 ・武士の体験というイベントを通して歴史に触れるハードルが低くなり多くの市民が参加して源氏の啓発に繋げることができた。 ・このイベントをきっかけに川西市の「源氏まつり」での子どもチャンバラ大会を実施することになり、多田神社だけでなく全市的な取り組みへと発展させることができた。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 3	(取組内容) 体幹を鍛える	(効果) 日本独自の武道の体験により精神・体感を鍛える
	4	歴史の勉強	イベントへの参加や体験を通じ、多田発祥清和源氏や川西市の歴史や文化を学ぶ
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 8	(取組内容) 武道を通じ清和源氏の認知度向上	(効果) 古来の武士道の精神のアピールが中心のため危険な道具は使わない
課題及び 今後の展望	17	川西市外来訪	都京都の歴史残る神社での体験でインバウンドを京都から分散させる
	外国人観光客の集客にあまり効果が見られなかった。SNS を中心とした市外への発信を強化していく必要があると感じた。 イベント参加者からは清和源氏について知ることができた等の好意的な意見が見られた。勉強という堅苦しいものではなく、体験という切り口で興味を持ってもらうことができたので、今後はこれらを継続して実施してき多くの方に体験を通じて清和源氏を発信していきたい。		

(活動状況写真)





(予告編)

<https://www.facebook.com/share/v/18VKyGnsEL/?mibextid=wwXIfr>

(本編)

<https://www.facebook.com/share/v/17aeywo7SC/?mibextid=wwXIfr>

(Youtube)

<https://youtu.be/nrhqPGq-P4?si=gGekq87zK0IBxZ6f>

団体名 竹あかり実行委員会

団体設立 西暦2025年11月1日

活動分野 芸術文化・歴史

設立目的

川西市多田神社は、清和源氏発祥の地として鎌倉から江戸時代まで武運長久の勅願所として、時の権力者が訪れている由緒ある神社だが知名度が低い。武家の祖としての認知を広めるための活動を通じて、国内外へ武家の祖清和源氏および多田神社の認知度を高める。また、地域の住民とイベントを行い、地域への愛着心を後世へつなげていく。

事業名 (三ツ矢&源氏ヒストリー・ウォーク回廊づくり)			
団体名	まちの宝物サポート隊	代表	光本 芳子
協働団体	アサヒ飲料株式会社、コーナン平野店、大阪青山大学、株式会社 Booth		
活動地域	川西市 全域		
事業の 目的・趣旨	本市の歴史「三ツ矢サイダー発祥の地」を軸に「サイダーのまち」としてキーワードの「源満仲」や「三ツ矢の誕生」を盛り込んだヒストリーウォーク回廊を作り、自然を守りながらアフター万博で訪れた方の本市への愛着形成をうながすとともに年間を通じて賑わい創出する。合わせて三ツ矢にまつわる場所を整備する。		
事業内容	【まち歩きマップの活用】これまで継続し取り組んだ本市ゆかりの歴史のストーリーを語るまち歩きマップは3種が揃っておりイベントでの配布など行った。 内容は、「清和源氏のふるさと探訪 源満仲公と三ツ矢の歴史を巡る（中部エリア 2021年）」、「頼光四天王 金太郎、鬼退治へ！（南部エリア 2022年）」、「隠されたストーリー 満仲公と竜馬（北部エリア 2023年）」。 【ウォーク回廊】三ツ矢&源氏ヒストリー・ウォーク回廊 QR や AR（拡張現実）などデジタル技術を活用し英文表記に対応した歴史回廊のコンテンツを設置した。 前提はイギリス人化学者ウィリアム・ガウランドによる天然鉱泉水の発見が「三ツ矢サイダー」の淵源になっていることや（宝塚市の炭酸鉱泉を発見はイギリス人のジョン・クリフォード・ウィルキンソン氏）、また三ツ矢のマークは、源満仲（武士）と九頭龍（龍）の伝説という壮大な物語を背景に持つ日本独自のブランドストーリーで、この物語を海外の方へ発信・体験してもらう。この場所が「川西市にある」と紹介し、訪問動機づけすること。 将来的には源氏の子孫（源頼朝、義経、木曾義仲など）も登場させスタンプラリーなど開催できれば関係人口を生む一助となる可能性がある。 今期は一つ目のウォーク回廊づくりの事業を実施した。 【イベント参加／整備活動・学びを深める取り組み】 本会が立ち上げから協力している北部3つのコミュニティ×大学が連携して行うイベント（市後援）「お城桜まつり」や、清和源氏まつりでもマップや歴史回廊を紹介した。市の指定文化財「三ツ矢記念館」前の公園整備も随時行っている。 また、キーとなる企業のアサヒ飲料株式会社の工場見学を5月に実施し川西市発祥の「三ツ矢サイダー」について、本会のメンバーも学びながら理解を深めた。 ※補足：昨年はニュースを賑わせたアサヒ飲料株式会社のサイバー攻撃の件でやりとりがストップした期間があったため、外部の制作会社とのミーティングも同時に前に進まなかった。期限が迫る中、会のメンバーで制作し実施するなどイレギュラーが発生した。		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	7	4	25	ミーティング ※随時	6	
	7	5	10	文化財エリアの整備活動 ※随時	4	
	7	5	22	アサヒ飲料の明石工場見学 ※別日も実施	5	5
	7	5	27	歴史回廊委員会ミーティング（製作内容の方向性 など打合せ）テストアップに向け制作開始	12	
	7	6	08	総会（会場参加 10 オンライン参加 2）	12	
	7	9	24	デジタルコンテンツ：テストアップ	4	
	7	10	17	制作会社株式会社 Booth 様と打合せ	4	1
	8	12	1	アサヒ飲料の社員様とお打合せ	2	2
				コンテンツのブラッシュアップ期間	4	
	8	3	26	デジタルコンテンツ公開※ミツ矢の日に間に合った	3	
	8	3	29	「第 5 回 お城桜まつり」（一般参加者数 大阪青 山大学の速報値より 3,536 名） ※定例会は随時実施：約 15 名（主催大学 1～3 名、 コミュニティ各 3～5 名、本会から約 3 名：） ※随時：第一弾～三弾のマップを増刷・無償配布 ※連携するイベントで関係各所へマップを配布 （随時）、川西ふるさとカルタは市のふるさと納 税に使用（本会から無償提供）	5	3536

事業効果	デジタルコンテンツをご覧いただくこと、本会作成のまち歩きマップを使った散策などで市の文化・歴史、自然にふれるきっかけづくりをし、川西市への愛着形成をめざすことができた。また電車・バス等の公共交通の利用促進をうながす効果も期待できた。SDGs の目標 11 番「持続可能な都市」項目で低炭素なまちづくりとなる一助となった可能性がある。市外の方へ川西市独自のユニークなストーリーを知っていただくことで交流人口を増やし地域の活性化へ少し寄与できた可能性があるため、ぜひ本事業は次期につなげていきたい。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 11	(取組内容) 持続可能な都市：目標 11 のターゲットの「11-2」で公共交通の利用促進を盛り込むことで、持続可能な交通手段使えるようにすること。「11-4」で文化や自然を保護（整備）し保っていくための努力を強化すること。	(効果) 継続して取り組む 3 種のまち歩きマップと今期のデジタルコンテンツ。こちらを活用し、公共交通の促進をめざすことができた。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 5	(取組内容) 未来まで続く花と緑と里山：マップを利用いただき散策いただく。今期事業のデジタルコンテンツも自然の中で体験いただく。	(効果) まち歩きマップを片手に散策することで里山の魅力や重要性等を発信できる。また今期事業のデジタルコンテンツは QR コードの案内板を掲示し、ユーザーはスマホやタブレットで表示するものなので、自然を壊すことなくコンテンツの設置とユーザー体験が可能だった。
	13	いきいき健康 100 年人生：まち歩きマップで市を周遊いただく。デジタルコンテンツも体験いただく。	マップを使用した散策とデジタルコンテンツで本市の文化・歴史を学びながら健康の促進をめざすことが可能だった。
課題及び 今後の展望	本事業は当初デジタルコンテンツを外部制作に委託しようとする、公開後の運用も併せ 100 万円近くかかる可能性があることがわかった。本会のメンバーにコンテンツ制作ができる人材がおり、またプロジェクトマネージャーを務めるメンバーがいたので製作が可能だったが今後の課題として AI の利用も含め、自然の中で楽しめる（＝自然を壊さない）、持続可能なデジタルコンテンツの構築についてさらに学ぶ必要があると痛感した。また以前から本会が市民団体のまま活動を継続するか一般社団法人や NPO へ形を変えるかについても引き続きメンバー間で話し合う必要があり、併せて資金面も今後の課題である。		

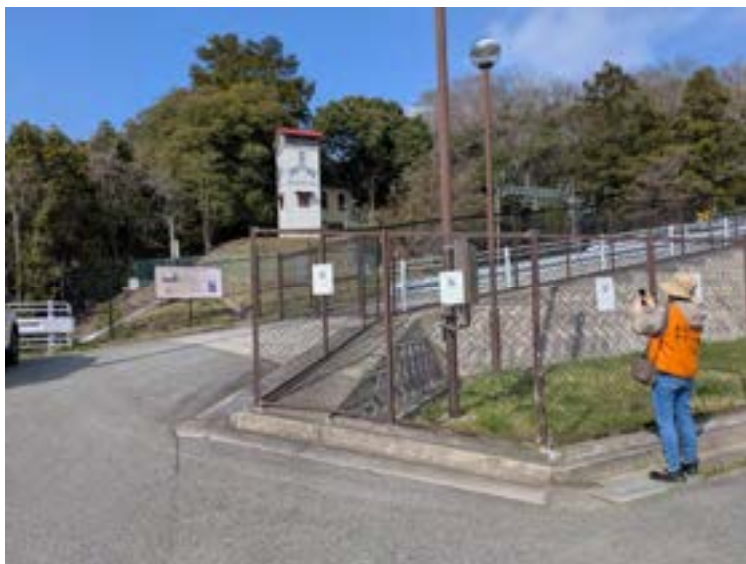
(活動状況写真)



アサヒ飲料様と打ち合わせ風景（手前：歴史回廊委員会の川村委員長、向かい 2 名：アサヒ飲料様）



三ツ矢サイダー発祥の地（平野鉱泉工場跡）
QRコード案内板を掲示（左）※アサヒ飲料所有 ご了承済



三ツ矢塔前の公園に QR コード案内板を設置 ※FWD 生命所有 コーナン管理 ご了承済



○歴史回廊委員会
委員長／PM：川村 3D ボトルデータ制作：丸谷、
HTM 作成：光本、アイデア出し：森田（裕）

AR コンテンツの表示風景 ※裏面に川西独自の特別な豆知識を表示：「9 つの泡」について



お城桜まつりのミーティング風景（3つのコミュニティと主催大学のメンバー様）



お城桜まつりの実施 ※アサヒ飲料は三ツ矢サイダーのサンプリングを行った（来場者：3536人）



お城桜まつり：博物館内の本会のブースエリア マップ配布やカルタ遊びなど行った

団体名 まちの宝物サポート隊

団体設立 西暦 2020年10月1日

活動分野 文化・歴史

設立目的 2019年に第2次川西市総合戦略を策定するため開催された市民会議「文化・歴史の活かし方」班、有志のメンバーで活動をスタートしました。文化財エリアの整備を軸として、歴史や文化など川西市の魅力を伝える活動や、市と協働事業も進めています。

事業名	(柏原棚田王国復活！国内外の誘客を図る体験型プログ)		
団体名	星の宿 彩音	代表	重森 千草
協働団体	猪名川町・農会・自治会など		
活動地域	猪名川町柏原		
事業の 目的・趣旨	猪名川町柏原地区は、高齢化、人口減少など過疎化が進んでいる状態。それにより、農家も高齢化により減少し続けている。 特に小さい棚田など、機械整備できない農地など耕作放棄地が増加し続けている状態。2010年頃まで、「棚田王国」と名付けた農業体験を地域の農家が企画し、大阪や神戸の家族連れらに大人気でした。田植えやかかし作り、稲刈りを楽しむ子どもたちの元気な声が響いていました。現在は高齢化が進み、企画されていません。 そこで、我々若者世代と地域の自治会・農家と一緒に体験プログラムを企画運営。現在、10年以上耕作放棄地になっている棚田を活用し、国内外の誘客を図り「棚田王国」の復活を目指します。 体験プログラムを通じて、阪神地域の「里山」の魅力・「農」「食」自然の大切さを創出し、地域の方々と共に、「棚田王国」を継承していくことにより耕作放棄地が減少し、観光・移住など流入人口が増加し、この町の持続可能な観光と農業の発展を目的とした。		
事業内容	・運営組織の結成 自治会、農会など実行委員会を組織し、事業運営を行う。 ・「棚田王国復活！」の開催 開催日時：令和8年3月29日（日） 10:00～15:00 開催場所：猪名川町柏原 内 容：柏原の棚田で田植え体験 参 加 者：国内外など延べ 25名 猪名川町・農業振興団体・農会・自治会など、地域諸団体と連携し交流促進を図る。		

	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
スケジュール	7	7	3	自治会・農会など打合せ	4	25
	7	8	3	実行委員会発足に向けて協議	6	
	7	10	3	第1回実行委員会	7	
	7	12	3	第2回実行委員会(イベント内容の協議)	5	
	8	1	3	第3回実行委員会(チラシ・SNS などデザイナーも含め協議)	7	
	8	2	3	第4回実行委員会(当日の準備物・業務内容・配置など確認)	6	
	8	3	29	「棚田王国復活！」開催	8	
	8	3	30	第5回実行委員会(反省会・次年度に向けて)	6	

事業効果	参加者 25 名の参加をいただき、この体験プログラムを通じて、阪神地域の「里山」の魅力・「農」「食」自然の大切さを十分に発信できた。 我々若者世代と地域の自治会・農家と一緒に体験プログラムを企画運営でき地域と連携し「棚田王国」を継承していく第一歩となった。 参加者も、24 名が県外からの参加で次回も必ず参加したいとの声が多かった。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の実現に向けた取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号)	(取組内容)	(効果)
	1 2	耕作放棄地で農業を体験しつくる責任・つかう責任を持つ。	農業を体験し、つくる大切さ、食の大切さの意識を向上した。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ)	(取組内容)	(効果)
	1 6	体験プログラムを通じて、美味しい「食」と多彩な「農」を目指す。	農業体験をすることで、美味しい「食」と多彩な「農」の創出ができた。
課題及び今後の展望	さらに「棚田王国」を継承していくことを目指し、地域の方との連携を深め、より多くの方に阪神地域の「里山」の魅力・「農」「食」自然の大切さを発信していく。 今後、田植えから稲刈りまで 1 年を通して農業体験を実施し、「棚田王国」そのものの付加価値を高めていく。 耕作放棄地が増加し続けている状態なので継続して活用していく。		

(活動状況写真)

別添参照

団体名 星の宿彩音

団体設立 西暦 2025 年 4 月 1 日

活動分野 まちづくり、環境保全、経済活動の活性化

設立目的 猪名川町の観光機関・自治会・農業振興など諸団体と連携し、観光事業・農業事業の健全な発展向上、観光客の誘致を図るために観光宣伝の高揚に努め、観光資源開発を促進し、産業経済の進展及び地域振興に寄与することを目的とする。

兵庫・県

一緒に!!

猪名川町で 棚田づくり 米農家 挑戦しませんか?

～長年使われていない棚田をみんなで再生～

自然 × 体験 × 遊ぶ

3/29
2026

荒天の場合は中止

10:00～14:00 (予定)

【募集人数】

25人
限定

先着順!

大自然の棚田で農業体験!!

耕運機や手作業で田んぼづくり!!

🍱 稲木で干したおにぎりを食べよう!!

大人・こども料金

米農家体験 1,500円

特製おにぎり2個 / 体験料 / 保険料込み

お申込はこちら

→ → →

申込締切日 3/22📅まで



星の宿 彩音

「阪神北☆夢づくり応援事業」



万博 2025 レガシー枠

事業名

(宝塚温泉を「英訳漫画」で世界に発信 2025 年万博枠)

団体名	宝塚温泉まつり実行委員会			代表	塩川 恵造	
協賛団体	宝塚市 宝塚教育委員会、宝塚第一小学校区まちづくり協議会 宝塚市観光賑わい課、宝塚市イングリッシュアカデミー、宝塚市国際交流センター					
活動地域	宝塚市中心市街地（旧温泉地・武庫川右岸地域中心）					
事業の目的・趣旨	事業の目的 （１） 宝塚温泉など歴史を海外の方にも周知し観光や地域の活性化するため、細川貂々作「ナゾの湯のまち宝塚」の漫画歴史冊子の英語版を市民の力で制作し普及する。 （２） 2025 年の大阪関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を具現化するため万博の来場者を宝塚に招く。留学生や在日外国人に冊子を配布。交流の場をもつ。					
事業内容	宝塚温泉まつりは 4 月 26 日、実行委員約 100 人、当日市民約 1000 人が参加しました。5 回目を迎え、温浴施設「ナチュールスパ」も地元で賑わっています。2025 年、大阪関西万博が開催され、その来場者やインバウンド客を誘致することは、宝塚など地方経済活性化への大きなチャンスと捉え、海外の方の魅力的なコンテンツとして、市民の力で「ナゾの湯のまち宝塚」の英語版製作し宝塚温泉へ足を運んでもらおうと本事業として企画しました。 2025 年 5 月から英語訳、7 月に校正、9 月末に印刷。「阪神北☆夢づくり応援事業」の支援だけでなく、「ナゾの湯のまち宝塚」の英語版が、市民の力で完成。1200 部印刷しました。 この冊子を、地元のホテル若水、宝塚市内の図書館、英会話学校など配布しました。また当初企画していた「ひょうごフィールドパビリオン」での配布はできませんでしたが、「大阪関西万博会場 commons 館」で 10 月に配布しました。 また、12 月に宝塚市国際交流協会主催「学生と語り合う集い」にて 紹介され、その後勉強会が始まりました。また、「中学校の部活動の地域移行」が来年夏に始まるのを受け、地元中学生と留学生をつなぐ「地域教材」として使うことが決まりました。					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	2025 年	1 月	25 日	第 5 回 宝塚温泉まつり実行委員会（第一回）	15 人	0 人
		4 月	26 日	第 5 回 宝塚温泉まつり	100 人	約 1000 人
		5 月	26 日	万博・アフター万博枠、審査会採択	3 人	
		7 月	30 日	英語訳作業・校正終了	7 人	
		9 月	30 日	印刷「ナゾの湯のまち宝塚」英語版	4 人	
		10 月	1 日	ホテル若水、宝塚市内図書館、英会話学校配布	10 人	
		10 月	8 日	大阪関西万博会場で配布（commons）	2 人	700 人
		12 月	14 日	宝塚市国際交流協会主催学生と語り合う集いで紹介される	2 人	20 人
	12 月	22 日	、「中学部活動の地域移行」の英語部で活用へ	5 人		

事業効果	冊子は宝塚市国際文化センターでは留学生らが交流に使用。観光旅館ホテル若水では外国人観光客が楽しみ、地元の英会話サークルでは小学生の教材に利用されました。「大阪関西万博」でも配布。FM宝塚、市立公民館、市立図書館、宝塚市役所でも常設しています。特に宝塚市立国際文化センターでの「留学生と語り合う集い」で、関西学院大学留学生が「宝塚温泉の英語冊子」を宝塚温泉の歴史を読み解く会の開催。中学部活動の地域移行を受け、地元の中学生と大学の留学生をつなぐ国際交流の「地域教材」として使用されます。万博は終わりましたが、この冊子は今から「万博レガシーの物語」を引き寄せます。		
SDGsの推進、阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標11) 持続可能な都市	(取組内容) 日本の温泉地の半分が廃れている。包摂的で安全、強靱で持続可能な都市及び人間居住を実現している宝塚のまちの履歴を世界に伝える	(効果) 宝塚温泉は鎌倉時代からの湯治場。「今も温泉でほっこり」でき「人でおもてなす」変化に対応してきた知恵が詰まった包摂的で美しい街は、持続可能な都市の形。英語冊子はこの物語を内外の方々に広げます。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	15・阪神モダニズム	(ストーリー) 観光業、行政、住民などが阪神地域の観光地の魅力をアピール。宝塚温泉、歌劇など地域資源を内外にアピールし誘客。	(効果) 「宝塚温泉の英語冊子」は、地域教材として地元の中学生と留学生を繋いだ。20年後歴史の語り部が住民として多言語多文化を身に付け、阪神モダニズムのGMOを設立も模索。若者たちが20年後未来を担う。
課題及び今後の展望	宝塚・西宮市在住の留学生が宝塚温泉の歴史英語冊子をきっかけに日本の魅力について議論され、2026年英語サークルや中学の部活動「宝塚温泉の歴史を読み解く会」がスタートします。この冊子は、未来の担い手を育て、様々な出会いを運んでくれました。大阪万博から直接的に誘致とか、インバウンドに頼らない、阪神モダニズムや兵庫の魅力を知る語り部を育てる。この冊子はその可能性を秘めています。活用方法を創造します。		

(活動状況写真)



団体名 宝塚温泉まつり実行委員会

団体設立 西暦2020年5月5日

活動分野 地域活性化(宝塚温泉の継承発展)

設立目的 宝塚温泉まつりは、市民有志が発起人となり、地元の自治会、ホテル若水、ナチュラルスパ宝塚をはじめとする旅館組合などにご支援いただき、実行委員会をたちあげ、宝塚温泉が開湯した5月5日に「温泉まつり」を復活させようと企画されたものです。

事業名		(三田母子トレイルレース)	
団体名	三田里山トレイルランニング実行委員会	代表	三崎 康平
協働団体	母永『宝と夢』の里づくり協議会 母子生産森林組合 花のじゅうたん 三田市立母子小学校		
活動地域	三田市北部 母子～下青野 地区		
事業の 目的・趣旨	1 美しい自然との一体感 トレイルランニングは自然環境で行うため、山や森の美しさと触れ合え、絶景に心を癒されます また都会の喧騒からも離れた自然の中での運動は心身をリフレッシュさせ、ストレス解消にもつながります 2 子どもから高齢者まで幅広い世代の健康 トレイルランニングは自分のペースで走ったり、歩いたりしてゴールを目指します 登り下りで身体全体を使う為バランスよく鍛えられます		
事業内容	(1)トレイルランニング大会の企画運営 (2)トレイルランニングのマナーコードの作成と普及啓発 (3)トレイルランニングに関する広報及び学習機会の提供 (4)登山道の整備、安全確保 (5)トレイルランニングを通じた国際交流 (6)各自治会への情報提供及び地域理解の促進 (7)会員への情報提供、会員同士の交流 (8)三田市のスポーツ大会への支援と協力 (9)その他、本会の目的を達成するために必要な事		
スケジュール	実施日（年-月-日）	事業概要	参加人数（人） スタッフ 一般参加者

7 年	7月	4日	整備	2人	
	7月	18日	整備	2人	
	8月	23日	整備	2人	
	8月	23日	ミーティング	4人	
	9月	12日	母子小学校打ち合わせ	3人	
	9月	20日	ミーティング	5人	
	9月	22日	ヒマラヤウッドタウン店協賛挨拶	1人	
	9月	23日	モシコムフォーム作成	1人	
	9月	26日	モシコムエントリー公開	2人	
	9月	27日	ミーティング	5人	
	9月	28日	整備	3人	
	9月	30日	エスコヤマ協賛挨拶	2人	
	9月	30日	市役所、ヒマラヤ、前中スポーツ、ポップサイクヘフライヤー設置	2人	
	10月				
	10月	3日	ミーティング	4人	
	10月	8日	ノベルティトートバッグ発注	1人	
	10月	16日	ハニーFM ラジオ収録	2人	
	10月	18日	ミーティング	4人	
	10月	22日	読売新聞取材	1人	
	10月	25日	ミーティング	4人	
	11月	26日	ボランティア要ゼッケン発注	1人	
	11月	31日	整備・ミーティング	4人	
	11月	7日	ミーティング	4人	
	11月	8日	エントリー締切	-	
	11月	16日	ボランティアリーダーと説明会	15人	
	12月		事務作業・資材購入	6人	
	12月	30日	母子地区松茸期間終了	-	
	12月	1日	整備	2人	
	12月	2日	整備・母子住民打ち合わせ	2人	
		3日	整備・資材準備	3人	
		6日	大会準備・テント等設営	9人	
		7日	大会開催	-	

事業効果	2025 年 12 月 7 日に開催された三田母子トレイルレースは、三田市北部の母子地区において、地域活性化と里山資源の活用を目的とした効果的なイベントとなりました。主な事業効果は以下の通りです。 ● 地域振興: 地域住民は地域の小学校と協力することで、過疎地域の自然や人の PR ができた。小規模特例校である母子小学校の存在を広く周知し、学校の魅力発信に繋がりました。 ● 交流人口: 大会を通じた三田市の自然環境の PR により、将来的な交流人口の増加が期待されます。 ● 観光資源の活用: 未舗装の道を活用することで、新たな観光コンテンツとしての可能性を示しました。また、参加者からは母子地区の自然のすばらしさを賞賛する声が多数きかれました。 ● 経済効果: 参加者による特産品母子茶の購入など、地域経済の活性化の糸口が見いだせた。宿泊を伴わない日帰りイベントが主でしたが、これらの活動により地域の魅力発信という点で大きな成果を上げた。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジョン 2050 の 実現に向けた 取組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号) 3 保健	(取組内容) みんなを元気にしたい (心身の健康保持や体力の向上)	(効果) トレイルランニングは未知の道や山を探索する冒険心を満ちし、自己の限界に挑戦すること成長や達成感を得られます 心身共に健康的な生活を確保につながる
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ) 5 9	(取組内容) 里山のファンやサポーターを確保、拡大する 大人も子供も参加出来る	(効果) 選手だけでなく、ボランティアに参加することにより、より自然、人、地域の人とも交流出来る 子供は体重が軽いので山は有利です 世代を超えて楽しめる
課題及び 今後の展望	エキスパートクラスでは、当初想定よりも多くの参加希望があったため 50 人から 70 人に定員増加をしたが、運営体制の限界もありそれ以上の増加は難しかった。一方で、トレイルランナーは長距離を志向することもわかり、将来的に運営体制が充実し、里山をつなげることでさらなる参加者が期待できることがわかった。 また、今回、地域住民による物販を試行的に実施し、野菜類等も売切れ状態であった。近隣にコンビニや商業施設もないため、今後、レース開催日と合わせて地域のマルシェ等を開催することで、地域経済の活性化も期待できる。 さらに、教員の少ない小規模特例校では難しいイベントを教員や教員 OB と一緒に協力するとともに、また無償で子どもやその保護者を招待したことで、子どもたちの楽しむ姿をみた母子小学校の校長先生からは、今後も継続実施したいといった意見があった。		

(活動状況写真)



エキスパートクラス



チャレンジクラス



ボランティア・地域の人

団体名

三田里山トレイルランニング実行委員
△

団体設立

西暦 2024 年 7 月 7 日

活動分野

設立目的

トレイルランニングを通して三田の自然、人、地域の魅力を伝えたい(自然や地域文化の発信)
 みんなを元気にしたい(心身の健康保持や体力の向上)
 みんなとつながり、楽しみたい!(市内外の人との交流)

事業名 (イタミヲテラス ～灯りのラビリンス in 西台～ワークショップ・マーケット実施事業)

団体名	イタミヲテラス実行委員会			代表	委員長 松村 成朗	
協働団体						
活動地域	伊丹市西台地区					
事業の 目的・趣旨	伊丹市中心市街地の阪急伊丹駅東側には、「清酒発祥の地、伊丹」を代表する地域資源「旧岡田家住宅・酒蔵」や三軒寺前広場（公共空間）があり、多くのにぎわい創出事業が行われてきました。しかし、阪急伊丹駅西側の「西台エリア」は東側ほど賑わいもなくイベントも盛んではない。そこで本事業では西台エリアに「特別なまちあかり」を展開します。これにより万博・アフター万博を契機として上記酒蔵などを訪れた観光客など市外の方々に同エリアをふらっと訪れ回遊していただくことで、街の魅力を発信・訴求すること、西台エリアの活性化を通じて伊丹市全体のにぎわいを創出することを目指す。					
事業内容	▶運営組織（実行委員会の立上げ） 地域の住民・商店会を中心に実行委員会を組織し事業運営を行う。 ▶「イタミヲテラス ～灯りのラビリンス in 西台～」におけるナイトマーケットの開催 ・開催日時：令和7年10月31日（金）16：00～21：00・11月1日（土）16：00～21：00 ・2日（日）16：00～20：00 ・開催場所：伊丹市西台エリアの主基公園（伊丹市西台4丁目） ・内 容：「灯り」をテーマにした「イタミヲテラス～灯りのラビリンス in 西台～」をさらに盛り上げるため、主基公園にてナイトマーケットを開催。集客向上に繋がるようお子様向けワークショップや飲食物販のマーケットを実施した。 ・参加者：のべ2,800人（3日間）					
スケジュール	実施日（年-月-日）			事業概要	参加人数（人）	
					スタッフ	一般参加者
	7	5	1	第1回実行委員会：開催概要・予算案・開催までのスケジュール検討	10	
	7	5	15	第2回実行委員会：開催体制、役割分担。	11	
	7	6	9	公園の使用について警察と打ち合わせ	1	
	7	6	10	公園の使用について市と打合せ	2	
	7	6	11	道路の使用について市と打合せ	1	
	7	6	12	第3回実行委員会：クラウドファンディング・役割分担、予算案	10	
	7	6	20	阪急阪神ビルマネジメントと打ち合わせ	4	
	7	7	3	同じ →小西酒造と打合せ	1	
	7	7	9	第4回実行委員会：ホームページ、各会場のコンテンツ固め。WEB、SNS 作成クラウドファンディングスタート チラシ/ポスターデザイン案検討	10	
	7	8	7	第5回実行委員会：ボランティア、企業協賛、ワークショップ&マーケット出店募集について	15	
	7	9	4	第6回実行委員会：ポスター、チラシの件、WEBサイト、SNS 発信、出店募集要項作成	12	
7	9	25	第7回実行委員会：地域住民に対しての告知、チラシ、ポスター納品配布について	10		
7	10	23	第8回実行委員会：会場設営や準備物の最終確	12		

			認		
7	10	31	本番1日目（雨天実施） 9：00～準備 16：00～ナイトマーケットオープン 21：00～ナイトマーケット終了、片付け	30	100
7	11	1	本番2日目 14：00～準備 16：00～ナイトマーケットオープン 21：00～ナイトマーケット終了、片付け	30	1500
7	11	2	本番3日目 14：00～準備 16：00～ナイトマーケットオープン 20：00～ナイトマーケット終了、片付け 撤収	30	1200
7	11	17	開催振り返り会、反省会	10	
7	11	18	報告書作成	2	
7	11	30	事業完了		

事業効果	地域内の回遊性を高める仕組み（イベント連携、スポット配置、商店参加施策等）を導入することで、商業者がこれまで以上に地域活動に参加しやすい環境を整備した。 これにより、これまで地域活動に消極的であった商業者が関わるきっかけとなり、地域経済およびコミュニティ双方の活性化が期待され、次年度以降の継続も検討していく。		
SDGsの推進、 阪神地域ビジョン2050の実現に向けた取組の効果	1 SDGsの推進		
	(目標番号)	(取組内容)	(効果)
	17	自治会、商店会、まちづくり会社、民間企業、商工会議所など、多様な団体が連携し、西台エリアの活性化を推進する体制を構築し、各団体が有する専門性やネットワークを活かしながら協働し、西台エリアの活性化を目指した。	複数団体の連携により、従来は個別の取り組みとなっていた活動に相乗効果が生まれ、新たなパートナーシップが形成された。今後地域内の交流促進、商業活性化、住民参加の拡大など、地域全体の活性化が期待される。
	2 阪神地域ビジョン2050の実現		
	(シナリオ)	(取組内容)	(効果)
	9	地域の自治会、子ども会、商店会、PTAなど、多様な世代・立場の団体が協力して事業の実施に取り組む体制を構築した。	多様な世代が共同で取り組むことで、これまで接点の少なかった住民同士の交流が促進された。
	17	エリア内を回遊できる仕組みを取り入れた事業を展開することで、地域全体のつながり強化と賑わいの創出を図った。	公園を基点とした回遊性の高い事業により地域内での滞在・移動が増えた。今後エリア全体の一体感と賑わい創出が期待される。
課題及び今後の展望	実行委員会の設立と回遊性向上の取り組みは、西台エリアにおける多世代交流の促進および商業者の参加拡大を実現し、地域全体の活性化へ寄与した。しかしさらなる多世代交流・商業者の主体的な参画のためには、継続的な取り組みを検討する必要がある。		

(活動状況写真)



団体名 イタミヲテラス実行委員会

団体設立 西暦 7年 4月 1日

活動分野 地域活性化

設立目的 多様な主体との協働により、まちの魅力を向上させ、地域課題解決へのモデル事業の実現を目指す。

事業名 (伝えようふるさと三田が育んだ偉人 ～白洲次郎～)						
団体名		(一社) 三田市観光協会			代表	見野 裕重
協働団体		三田市 (後援)、三田市教育委員会 (後援)				
活動地域		三田市				
事業の目的・趣旨		目的 : 公のために人生を全うした三田の偉人 白洲次郎 に焦点をあて、次世代を担う若者にその思いを語り継ぐ テーマ : 「伝えようふるさと三田が育んだ偉人～白洲次郎～」 趣旨 : ①今日の幸せは先人の願われた未来であることを知る ②三田への「愛着」と「誇り」を育み、三田へのふるさと意識の醸成 ③万博・アフター万博の流れを活用し国内外に三田の魅力を伝える				
事業内容		白洲次郎ゆかりの遺品や東京都町田市の旧白洲邸武相荘所蔵の資料の展示等を行い、三田の偉人とその生涯について学び、グローバルな人材を育成する ・ 展示期間 : 令和 7 年 10 月 27 日～11 月 3 日 (10/29 は休館日) 7 日間 ・ 場所 : 三田市文化センター郷の音ホールロビーエリア ・ 実施内容 : ①旧白洲邸武相荘からの貸与資料の展示 ②歴史文化財ネットワーク三田制作の歴史資料の展示 ③三田観光ガイドによる特別街歩きツアーの実施 ④市学芸員を講師に、白洲次郎セミナーおよびガイド研修会の開催 ※大阪・関西万博及びアフター万博に向けて交流促進手法 ・ 空港、主要ターミナル等の観光案内所での万博期間中の情報発信 ・ インバウンドおもてなし環境の整備 (HP の英語表記、英語対応可能な展示案内スタッフの配置、ガイドツアーでの翻訳機の使用など) による受け入れ態勢の構築 ・ 在阪ランドオペレーター、観光案内所に向けイベントの周知を実施				
スケジュール		実施日 (年-月-日)			参加人数 (人)	
					スタッフ	一般参加者
		7	8	5	ふるさとと偉人顕彰委員会の立ち上げ	
					開催概要、開催体制の協議	
			9	1	展示品のレンタル交渉・制作準備開始	
			9	9	第 2 回実行委員会：イベント内容の協議	
			10	14	第 3 回実行委員会：当日の配置、業務内容	
			10	27	午前中、展示品の搬入と設置	
					午後～白洲次郎企画展の開催 7 日間	
					(～11/3 10/29 休館日)	
			10	30	セミナー事前準備	
			10	31	セミナーおよびガイド研修会の開催	
					三田観光ガイドによる特別街歩きツアー開催	
			11	1		
			11	3、4	展示品の撤収	
			11	11	第 4 回実行委員会：開催結果報告、反省会	
					精算、報告書作成	
			1	30	事業終了	

事業効果	・企画展へは 7 日間でのべ 2,507 名、セミナー参加者は 37 名と想定以上の参加をいただき、今回十分に阪神北の交流促進を行える 1 事業となりうることが実証された。 ・11 月 2 日、3 日の両日は、企画展会場で市民文化祭も開催されたため、多くの中高校生で賑わった。三田への郷土愛と白洲次郎が生涯かけて護ろうとした祖国愛を次世代へつなぐ一助となった。 ・市内外の歴史ファン、白洲次郎ファンへの声掛けにより、期間中にまち歩きツアーを 3 回開催、参加人数計 79 名となった。（1 回は一般募集、2 回はグループ貸切） ・歴史文化財ネットワーク三田や三田観光ガイドとの連携による三田の歴史、文化財の市内外への情報発信ができた。 ・訪日外国人への観光デスクティネーションとしての三田の認知拡大と情報発信ルートの開拓ができた。 ・ガイド研修会開催によるガイド不足対策、まち歩きガイドツアーの認知拡大への一助となった。		
SDGs の推進、 阪神地域ビジ ョン 2050 の実 現に向けた取 組の効果	1 SDGs の推進		
	(目標番号)	(取組内容)	(効果)
	4	三田の歴史的偉人とその生涯を学ぶ機会を提供し、グローバルな人材を育成する。	偉人顕彰を通じて三田の歴史と文化財を振り返っていただくことが出来た。
	11	三田の歴史的偉人とその生涯を学ぶ機会を提供し、三田への愛着、誇りを育む	偉人の業績を語り継ぐことで、ふるさとへの愛着と誇りを持続いただくきっかけを提供できた。
	2 阪神地域ビジョン 2050 の実現		
	(シナリオ)	(取組内容)	(効果)
	8	三田の歴史的偉人とその生涯を学ぶ機会を提供し、グローバルな人材を育成する。	偉人顕彰を通じて三田の歴史と文化財を次世代につなぐきっかけを提供できた。
	17	展示会、セミナー開催による交流人口の拡大	イベントを通じての三田の魅力発信、観光誘客、市民の相互交流を演出できた。
課題及び 今後の展望	さらに阪神間での浸透を目指し、関係機関との連携を深め、広報、情報発信に努めていく。参加者及び参加ボランティアの裾野を広げ内部充実を図り、付加価値を高めていく。財政基盤が脆弱であるため、今後は有料イベントの企画や、寄付、協賛金などの収入も検討に加え、自立的な運営体制の確立に努めたい。		

(活動状況写真)

白洲次郎企画展





白州次郎セミナー（郷の音ホール）



白洲次郎まち歩き（心月院）



団体名 一般社団法人 三田市観光協会

団体設立 西暦 2021 年 4 月 5 日

活動分野 観光事業の振興

設立目的 令和 3 年度から一般社団法人

①観光事業の振興及び調査研究

②観光宣伝・紹介及び観光客の誘致

③観光資源の開発及び保存

④観光施設の計画及び促進

⑤各関係機関及び関係団体との連絡調整